

2017年度 点検評価改善報告書

[委員会別業務評価]



西南女学院大学

西南女学院大学短期大学部

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・大学短期大学部	委員会名称	人事			委員会
大短委-2017-01			担当部局等	部局等	事務部	課	庶務課
委員会設置の根拠（規程等）		西南女学院大学・西南女学院大学教員及び助手選考規則第2条					
構成	委員長	稲木光晴	副委員長	大谷浩	加來卯子	構成員数	
	委員	目野郁子	稲木光晴	八木康夫	大谷浩		
		神崎明坤	加來卯子	戸田由美		7	

委員会の役割に関する事項（概要）	<ul style="list-style-type: none"> ■大学評議会であらかじめ定められた人事計画の方針に則り、採用候補者及び昇任候補者を選定する。 ■大学評議会であらかじめ定められた人事計画の方針に則り、特別契約教員人事を取扱う。
------------------	---

年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	採用人事	適正な人材の確保（後任補充）	上程	教授会・別科会
	昇任人事	公正な昇任人事の実施	上程	教授会・別科会
	特別契約教員人事	適正な人材の確保（新規、更新）	上程	教授会・別科会

年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	円滑な委員会運営			
	採用選考委員の選出			
	法令等への理解			
	採用予定者との連絡調整			

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	採用人事	決裁・意見・委託・上程の別	上程	教授会・別科会
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■本学の採用人事の多くは、後任補充人事である。 ■次期の教育研究体制に支障が出ないよう、適正な人材を確保したい。 ■人事に係る意思決定過程を勘案し、適切な人事作業日程を策定する。			
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■人事案件ごとに採用選考委員会を組織し、公募要項の作成、応募者資格審査、業績審査、面接、その他リサーチを実施した。一部案件は、人事方針受領後の公募開始が遅れたこともあった。■当該学科人事委員等においては、適正な人材を獲得するために学内外に対して必要な働きかけを行った。			
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■人事案件19件のうち、採用候補者を上程するに至ったのは18件(延べ19人)である。 ■採用選考委員会は概ね適切に機能したが、案件によっては書類選考、面接後の選考の各段階で人事委員会から採用選考委員会に対して必要な教示を行った場合もあり、採用選考委員と選考に係る当該学科人事委員の連絡調整、意思疎通に課題が残った。			
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■公正な人事手続を前提とし、理事会決定後の採用予定者に対しては必要に応じて連絡調整を行うなどして、着任までの円滑なコミュニケーションを図るよう努める。■当該学科人事委員は学科及び採用選考委員と適切に連携を図る。■委員相互が選考期間中に適宜コミュニケーションを図り、選考活動の誠実性と有効性を担保する。			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■定年退職者に係る後任人事案件については、年度の早い段階で人事方針を受けて採用人事が進められるよう、各学科人事委員は学科内で必要な対応をとる。 ■委員相互が適宜コミュニケーションを図り、選考活動の誠実性と有効性を担保できる選考期間を設定（十分な日程確保）する。			

年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	項目[事案]	昇任人事	決裁・意見・委託・上程の別	上程	教授会・別科会	
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■昇任人事申請資格者に対して、大学評議会の人事方針に基づく審査基準等を明確に示し、公正に人事が行われるようにしたい。 ■人事情報の適正な管理を行う。				
	↓	↓				過程の 評価
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■昇任人事に関する申し合わせ事項を作成し、教授会及び別科会で説明を行い、大学評議会の人事方針に基づく審査基準等を周知した。 ■人事委員会において人事日程、申請に係る各種様式、申請資格者情報等を確認し、公正な人事を手続の面からも担保した。				
	↓	↓				結果の 評価
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■申請期間及び選考期間の終了までの間、委員会は人事の透明性、公平性の観点からその責務を果たした。 ■選考の結果について、候補者の昇任可否に関する委員会として根拠を明確にし、教授会の場や対象者に対して説明責任を果たせる態勢を整えた。				
	↓	↓				
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■特になし。				
	次年度見通し	次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し ■特になし。				
	項目[事案]	特別契約教員人事	決裁・意見・委託・上程の別	上程	教授会・別科会	
P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■大学評議会による特別契約教員に係る人事方針に基づき、本学の「特色ある教育」の推進と次期の教育研究体制の充実のために、候補者の職位（案）を適切に判断し、教授会上程したい。					
↓	↓				過程の 評価	
D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■新規の案件については、候補者から提出された個人調書及び教育研究業績書をもとに該当する職位について審査を行った。 ■更新の案件については、大学評議会の人事方針に基づき、当該学科長より提出された推薦理由書等を確認し、教授会上程への手続をとった。					<input checked="" type="checkbox"/> 順調 <input type="checkbox"/> 遅延 <input type="checkbox"/> 未実施
↓	↓				結果の 評価	
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■新規案件は3件であり、すべての案件で候補者を上程するに至った。個人調書及び教育研究業績書の審査により、適切な職位を案として確定させた。 ■更新案件は1件であり、すべての案件で候補者を上程するに至った。					<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 前維持 <input type="checkbox"/> 停滞 <input type="checkbox"/> 後退
↓	↓					
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■特になし。					
次年度見通し	次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し ■特になし。					

委員会の運営・通常 の審議経過等に係る計画/ 実施/評価に関する事項	P 計画	委員会の運営・通常 の審議経過によって、 対象（何を・誰を）を どのような状態にしたいのか ■人事案件ごとに日程管理 を行い、理事会への上程期 限を逸することが無いよう にしたい。 ■各委員及び担当部局が 時程管理について相互に 理解し、スケジュール調整 を円満に行いたい。 ■資料等作成（複製）の ためのコストを軽減したい。	過程の 評価
	D 実施	計画(P)を達成するた めに「誰が」「何を」「 どのよう」に行ったか ■学生昼休み時間帯を 活用し、遅い時間に開 催することを極力避けた。 ■人事案件ごとに日程 表を作成し、各委員に 配付した。 ■人事委員が採用選考 委員と連絡調整を密に し、作業工程管理を徹 底した。 ■回覧業績資料の複製 部数を極力抑えた。	
	C 評価	実施(D)によって計 画(P)は達成・前進し たか / 達成・前進して いない理由は何か ■採用面接を除き、委 員会の大部分は日中に 開催された。 ■各委員及び担当部局 は、スケジュール調整に 柔軟に対応した。 ■欠席委員の事前確認 と了承、委員長による 欠席委員への事後説明 など、委員会外のコミ ュニケーションの円滑 化により、情報共有は 齟齬無くなされた。	結果の 評価
	A 改善	評価(C)をふまえて、 次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■資料等作成（複製） に係るコストの軽減は 引き続き検討を続ける。 応募資格の有無を判断 する審査から業績審査 に移行する過程を、効 率性の観点から検証す る必要がある。 ■採用選考の当該学科 人事委員による評価表 取りまとめに際し、委 員会としての統一的取 扱いは継続を要する。	成進 持滞 退 □達 ■前 □前 □停 □後
	次年度 見通し	次年度における計画 (P)の修正・変更・廃 止の見通し ■資料等作成（複製） のためのコストを軽減 については、応募資格 の有無を判断する審査 から業績審査への移行 という手続的観点から 効率性向上のための計 画を立案したい。 ■採用、昇任、特別契 約教員の3種の評価表 様式について、それぞ れの人事の特異性を加 味した上で、各学部学 科及び別科が共通して 使用できるものを検討 するための環境を整え たい。	

委員会が取り扱った 項目[事案]のうち特に 状況等の記載を要する 事項	項目[事案]	円滑な委員会運営	決裁・意見・委託・上程の別	
	項目[事案]に係る規程上の根拠	委員会及び執行機関の役割に関する規程第2条、第5条		
	■委員長と担当部局は連絡調整を密にし、特に日程管理の観点から意思疎通を図った。 ■人事案件に係る学科人事委員は日程、審査、委員会前の事前打ち合わせなど遺漏なく行い、担当部局と学科との仲介者として役割を果たした。			
	項目[事案]	採用選考委員の選出	決裁・意見・委託・上程の別	決裁
	項目[事案]に係る規程上の根拠	西南女学院大学・西南女学院大学短期大学部教員及び助手選考規則第6条		
	■採用選考委員会は、手続においても、具体的選考作業においても、適切に公正に機能した。			
	項目[事案]	法令等への理解	決裁・意見・委託・上程の別	
	項目[事案]に係る規程上の根拠	委員会及び執行機関の役割に関する規程第6条、第7条		
	■教員人事が、大学設置基準、本学院内部規則及び労働関係法令といった、法令等にも関わってくる問題であることについて、委員会として共通認識を図った。			
	項目[事案]	採用予定者との連絡調整	決裁・意見・委託・上程の別	
	項目[事案]に係る規程上の根拠	■理事会通過後の採用予定者との連絡調整について、当該学科の人事委員は学科長と連携して採用予定者と然るべく接触を図るとともに、担当課は法人本部と連携を図って対処した。		
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別	
項目[事案]に係る規程上の根拠				

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・大学短期大学部	委員会名称	教務 委員会		
大短委-2017-02			担当部局等	部局等	教務部	課
委員会設置の根拠（規程等）		西南女学院大学・西南女学院大学短期大学部会議規則第39条、教務委員会規程第1条				
構成	委員長	伊藤 直子	副委員長	塚本 美紀	命婦 恭子	構成員数
	委員	石井 美紀代	嶋村 美由紀	近江 雅代	神崎 明坤	
		穴田 和子	谷崎 太	橋本 久美子		10

委員会の役割に関する事項（概要）	<p>■教育の質の維持、向上及び学生の修学上の支援を行うために必要な以下の事項を審議する。</p> <p>1. 教育課程の編成及び授業に関する事項 2. 学生の休学、復学、退学、卒業及び課程の修了に関する事項 3. 転学部・転学科に関する事項 4. 研究生、科目等履修生、聴講生、特別聴講学生及び外国人留学生に関する事項 5. 行事日程に関する事項 6. その他教務に関する事項</p>
------------------	---

年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	学生支援システムの学外からの利用について	UNIVERSAL PASSPORTのスマホ版利用についての検討	決裁	
	2018年度 教育課程の改正について	2018年度から実施する大学共通の教養教育についての検討	意見	
	初年次教育について	初年次教育に繋げるための基礎学力判定テスト実施の検討	決裁	

年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	学生の動向について	休学、退学、復学、除籍、復籍の審議	決裁	教授会報告
	転学部・転学科について	受入れの審議	上程	教授会
	非常勤講師候補者の委嘱について	非常勤講師候補者の委嘱についての審議	上程	非常勤講師候補者選考会議
	卒業判定について	前期末・年度末の卒業判定についての審議	上程	教授会

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	学生支援システムの外部からの利用について	決裁・意見・委託・上程の別	決裁	
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■2017年度より学生に、学生支援システム（UNIVERSAL PASSPORT）による情報（スケジュール管理、掲示確認、学生時間割表、成績照会、シラバス照会、出欠状況の確認）等をスマホ版で学外からいつでも確認できるようにし、学修支援や学生サービスに役立てる。			
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■学生に周知を図るため、教務委員会で報告し、各学科のオリエンテーションにおいて説明を行った。説明の際に分からない場合は、教務課で対応するようにした。			過程の評価 ■順調 <input type="checkbox"/> 遅延 <input type="checkbox"/> 未実施
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■スマホ版で学外からいつでも情報が確認できるので、学生支援システム（UNIVERSAL PASSPORT）の利用率が上がっていると思われる。その理由のひとつとして、定期試験の結果が学外からすぐにわかるので、学生からの成績に対する問い合わせが減少した。			結果の評価 ■達成 <input type="checkbox"/> 前進 <input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 停滞 <input type="checkbox"/> 後退
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■現在、休講情報の掲示については、これまでどおり学内掲示板にスマホ版と同じ形式のものを掲示しているが、今後掲示板の活用についての検討が必要であると考えられる。また、学生の利便性や活用促進を考えた場合、学生支援システム（UNIVERSAL PASSPORT）のアプリについても検討したい。			
	次年度見直し	■引き続き、学生支援システム（UNIVERSAL PASSPORT）に学修支援のための学修ポートフォリオ等の機能を追加することができないかを検討する。			

年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	項目[事案]	初年次教育について	決裁・意見・委託・上程の別	決裁		
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■2018年度の教育課程改正により、総合人間科学に全学共通の「初年次教育」の領域が設定され、「初年次セミナーⅠ・Ⅱ」を開設する。それに伴い、業者を利用した「基礎学力判定テスト」を実施し、その結果を「初年次セミナー」の授業内容の組み立てに活用してもらおう等、学修支援に役立てたい。				
	↓					
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■実施科目は、「日本語」と「思考力」の2科目とすることが承認された。試験日程は、2018年度オリエンテーションに組み込み、各学科で教務委員を中心として実施することが決定した。試験結果データは、業者に解答用紙が届き次第、3、4日で判定される。				過程の 評価 ■順調 □遅延 □未実施
	↓					
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■今まで懸案であった「初年次教育」に着手できたことは、今後の授業運営に効果があると期待できる。また、様々な入試形態で入学してきた学生がどの程度の学力をもっているか等、確認することができるので、各学生に応じた学修支援が可能と思われる。				結果の 評価 ■達成 □前進 □維持 □停滞 □後退
	↓					
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■大学全体として、基礎学力判定テストの結果を初年次教育にどのように活かしていくかを検討する必要がある。				
	次年度見通し	次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し				
	項目[事案]			決裁・意見・委託・上程の別		
P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか					
↓						
D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか				過程の 評価 □順調 □遅延 □未実施	
↓						
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か				結果の 評価 □達成 □前進 □維持 □停滞 □後退	
↓						
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと					
次年度見通し	次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し					

委員会の運営・通常 の審議経過等に 係る計画/実施/ 評価に関する事項	P 計画	委員会の運営・通常 の審議経過によって、 対象（何を・誰を）を どのような状態にしたい のか ■第1回目の教務委員会で 今年度の審議・検討事項 についての確認をする。 ■学生支援システム （UNIVERSAL PASSPORT） による学修支援を検討する。 ■2018年度入学生から 適用する総合人間科学の 内容についての共通理解を 図る。	
	D 実施	計画（P）を達成する ために「誰が」「何を」 「どのよう」に行ったか ■今年度の審議・検討 スケジュールに従い、滞り なく実施することができた。 ■学生支援システム （UNIVERSAL PASSPORT） をスマホ版で外部公開 することによって、 タイムリーに情報を得る ことができるようになった。 ■2018年度入学生から 適用される総合人間科学 科目について、意見交換 を図り、内容を確認した。	過程の 評価 ■順調 □遅延 □未実施
	C 評価	実施（D）によって 計画（P）は達成・前進 したか / 達成・前進して いない理由は何か ■学生支援システム （UNIVERSAL PASSPORT） をスマホ版で学外公開 することによって、学生 の利用率向上に繋がり、 学修支援のためのさら なる活用について検討 することが可能となった。 ■大学共通で開設する 総合人間科学の科目内 容について、大学内で 共通理解を図ることが できたことは、評価 できる。	結果の 評価 □達成 ■前 ■前 □維持 □停滞 □後退
	A 改善	評価（C）をふまえて、 次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■学生支援システム （UNIVERSAL PASSPORT） による学修支援の方法 について、継続して検討 していく必要がある。 ■2018年度総合人間 科学の各科目の到達目 標と配置されている大 学DPとの整合性につ いて、今後検証する 必要がある。	
	次年度 見通し	次年度における計画（P） の修正・変更・廃止の 見通し	

委員会が取り扱った 項目[事案]のうち特に 状況等の記載を要する 事項	項目[事案]	留学先の大学を認定校と することについて	決裁・意見・委託・上 程の別	大学評議会に上程
	項目[事案]に係る規程上 の根拠	西南女学院大学「学生 海外留学規程」		
	■観光文化学科の学生が 留学を希望している大 学が現時点で認定校で はないため、教務委員 会として留学先がどう いう大学で学生が受講 するプログラムが本学 で単位認定できるかど うかを審議した。			
	項目[事案]	転学部・転学科につ いて	決裁・意見・委託・上 程の別	決裁
	項目[事案]に係る規程上 の根拠	西南女学院大学「転学 部・転学科規程」		
	■2018年度転学部・ 転学科募集要項の出願 資格及び試験内容につ いて検討した。看護学 科から、定員超過をし ている場合でも、転学 科の受け入れをしない といけないかどうかと いう意見が出された。			
	項目[事案]	休学・退学防止のため の学科における取り組 み状況	決裁・意見・委託・上 程の別	意見
	項目[事案]に係る規程上 の根拠			
	■昨年に引き続き、 2016年度退学者数及 び退学理由別の集計表 をもとに、各学科が 2017年度退学防止の ための取り組みを作成 し、教務委員会で報告 した。各学科・別科 での退学防止の改善策 内容を共有することで 、各学科の取組みや 改善策についての参考 となった。			
	項目[事案]	2018年度教育課程の 履修登録上限単位及び 除外科目について	決裁・意見・委託・上 程の別	決裁
	項目[事案]に係る規程上 の根拠	大学：履修規程第5条 の6 短大：履修規程 第7条の3		
	■2018年度教育課程 改正に伴い、履修登 録上限単位及び除外科 目の検討を行った。			
項目[事案]		決裁・意見・委託・上 程の別		
項目[事案]に係る規程上 の根拠				

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・大学短期大学部	委員会名称	学生 委員会			
大短委-2017-03			担当部局等	部局等	学生部	課	学生課
委員会設置の根拠（規程等）		「学生委員会規程」第1条					
構成	委員長	八尋 春海	副委員長	八木 康夫	篠木 賢一	構成員数	
	委員	笹月 桃子	木村 茂喜	八木 康夫	馬本 鈴子		
		木沢 誠名	加來 卯子	篠木 賢一	八尋 春海		
		三宅 利佳					
						9	

委員会の役割に関する事項（概要）	■学生の学業指導及び生活指導に関する事項、学生の課外活動に関する事項、奨学生に関する事項、授業料の減免に関する事項、学生の厚生施設及び厚生事業に関する事項、学生の保健管理に関する事項、その他厚生補導に関する事項について審議する。					
------------------	--	--	--	--	--	--

年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	学生生活に関する実態調査結果のフィードバック	学生サービス向上に向けての調査結果のフィードバック	決裁	
	指定サークルにおける施設借用ルール改正	学外者の入校と利用時間に関する制限緩和	継続審議	

年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	一般奨学生の募集・選考	募集要項の作成、選考	意見	学長
	特別奨学生の選考・更新	学業とスポーツの両立、学業不振学生への修学指導	意見	学長
	オリエンテーション日程案の策定	オリエンテーションの充実と実施	決裁	
	学生生活に関する実態調査の実施	1学年・最終学年対象に12月実施	決裁	

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	学生生活に関する実態調査結果のフィードバック	決裁・意見・委託・上程の別	決裁		
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 「学生生活に関する実態調査」において記述のあった意見・要望について、修学支援や学生サービス等の改善に反映させるために、当該学科・部署において検討のうえ責任ある回答を作成し、学生に公表する。				
		D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか 自由記述に記載された事項を、内容に応じて、回答するにふさわしい事務や学科に提示し、回答内容を検討してもらうよう学生部から依頼をした。そして、その結果を学内LANに掲示した。			
	C 評価		実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 今回の取組みにより、「学生生活に関する実態調査」の実施を通して、本学における教育や学生支援等に対し、学生の意見や要望が反映されるシステムが適切に整備された。			
		A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 引き続き実施する。			
	次年度見直し		次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見直し			

過程の評価
 順調
 遅延
 未実施

結果の評価
 達成
 前進
 維持
 停滞
 後退

年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	項目[事案]	指定サークルにおける施設借用ルール改正	決裁・意見・委託・上程の別			
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 日曜日の学内施設の使用、部外者の退出時間の延長について、関係部署で規定の緩和に向けた検討を行う。				
	↓	↓				過程の 評価
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか 指定サークルの顧問に依頼をして、他大学の状況、規定を緩和することによる長所と短所について調査を依頼した。				■順調 □遅延 □未実施
	↓	↓				結果の 評価
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 現時点で得られた調査の内容が不十分であり、再調査を依頼した。				□達成 □前進 ■維持 □停滞 □後退
	↓	↓				
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 再調査を終えて、それをもとに関係部署で実施に向けた検討を行う。				
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し				
	項目[事案]	指定サークルにおける施設借用ルール改正	決裁・意見・委託・上程の別			
P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか					
↓	↓				過程の 評価	
D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか				□順調 □遅延 □未実施	
↓	↓				結果の 評価	
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か				□達成 □前進 ■維持 □停滞 □後退	
↓	↓					
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと					
次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し					

委員会の運営・通常 の審議経過等に 係る計画/実施/ 評価に関する事項	P 計画	委員会の運営・通常 の審議経過によって、 対象（何を・誰を）を どのような状態にしたい のか限られた時間内で 集中した審議を行う。	
	↓		
	D 実施	計画(P)を達成する ために「誰が」「何を」 「どのよう」に行ったか 委員会では、委員長が 審議事項の背景、ポイント、 参考となる事項を説明した。	過程の 評価 <input type="checkbox"/> 順調 <input type="checkbox"/> 遅延 <input type="checkbox"/> 未実施
	↓		
	C 評価	実施(D)によって計画(P) は達成・前進したか / 達成・ 前進していない理由は何か 審議の論点がずれることなく 論議が進み、時間の短縮にも つながった。	結果の 評価 <input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 前 進 <input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 停滞 <input type="checkbox"/> 後退
↓			
A 改善	評価(C)をふまえて、 次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと を引き続き、行っていく。		
	次年度 見通し	次年度における計画（P） の修正・変更・廃止の見通し	

委員会 が取り扱った 項目[事案]の うち特に状況 等の記載を要 する事項	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
	項目[事案]に係る規程上の根拠					
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
	項目[事案]に係る規程上の根拠					
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
	項目[事案]に係る規程上の根拠					
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
	項目[事案]に係る規程上の根拠					
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
	項目[事案]に係る規程上の根拠					

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・大学短期大学部	委員会名称	就職			委員会
大短委-2017-04			担当部局等	部局等	学生部	課	就職課
委員会設置の根拠（規程等）		就職委員会規定					
構成	委員長	八尋 春海	副委員長	久保 由紀子	藤田 稔子	構成員数	
	委員	八尋 春海	新木 眞理子	岡田 和敏	久保 由紀子		
		阿部 弘	木沢 誠名	加來 卯子	藤田 稔子		
		坂田 美登里				9	

委員会の役割に関する事項（概要）	学生の就職指導に関する事項、学生の就職斡旋に関する事項について審議する。
------------------	--------------------------------------

年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別
	ゼミ等少数人数を対象にガイダンスを行う	3年生を対象とし、就職に向けて具体的に指導	意見
	卒業生アンケート・就職受け入れ先へのアンケート調査について	回収率アップ、調査結果の分析、結果に対する今後の取り組みについて検討する	意見

年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別
	学内合同企業説明会開催について	企画・運営を学生にゆだねる	
	学生の基礎学力補完について	全学年（特に3年）対象に数学講座を実施	
	ゼミ担当教員への状況報告（月初め）	進路決定に向けて、教員と就職課との連携	
	インターンシップについて	インターンシップ参加実績・報告会の実施	

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	ゼミ等少数人数を対象にガイダンスを行う	決裁・意見・委託・上程の別	意見	
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ・各学科教員に計画の趣旨を説明し、協力を依頼。従来の3年次就職ガイダンスを少数人数制に置き換え実施。 ・学科毎に実施時期、内容を調整。			
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ・2016年度より開始した少数人数対象（ゼミ・実習フループ等）にガイダンスを実施。全学科3年生対象。・英語学科、観光文化学科3年生のゼミ毎に7～8月に実施 ・看護学科3年生は実習グループごとに9～12月にかけて実施 ・福祉学科は就職希望職種、ゼミ等ごとに10～1月に実施 ・栄養学科はアドバイザーごとに10～11月に実施			過程の評価 ■順調 □遅延 □未実施
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ・人文学部は7月にゼミごと。就職活動ハンドブック配布と共に実施したことで、今後の一般企業対象の就職活動についてより具体的な理解につながった。・福祉学科は学生の目指す分野ごとに実施。看護学科は実習グループごと。栄養学科はゼミごと。看護学科・福祉学科においては、ガイダンスに就職活動を終えた4年生を招くことで、さらに理解が深まった。			結果の評価 □達成 ■前進 □維持 □停滞 □後退
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ・人文学部に対し7月に実施したが、後期に入って行うほうが効果的ではないか。企業就職は早期からインターンシップ等への参加が望ましいと考えて7月に実施したが、本格的な就職活動が始まる直前に行うことも検討中。少数人数を対象とすると回数が多いため、できるだけ効果的な時期に実施したい。			
	次年度見直し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見直し ・実施時期、内容について学科教員とさらに検討して実施したい・全学科3年生を対象は継続			

項目[事案]	卒業生アンケート・就職受入先へのアンケート調査	決裁・意見・委託・上程の別	意見		
P 計画 ↓ D 実施 ↓ C 評価 ↓ A 改善	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 「西南女学院大学卒業生アンケート」・「受け入れ先から見た本学卒業生の評価に関するアンケート調査」の回収率を上げ、調査結果の分析と今後の対策を検討する。				
	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ・北九州近郊の企業には直接アンケート（企業対象・卒業生対象）を持参し、趣旨を説明し回答依頼。未提出企業には、直接電話連絡し協力要請した。卒業生には、各学科教員（ゼミ担当）を通じて回答依頼、督促して提出を促した。就職課員においても電話・メールで卒業生にアプローチした。第4回就職委員会において、アンケート結果についての意見交換を行った。			過程の 評価	<input type="checkbox"/> 順調 <input checked="" type="checkbox"/> 遅延 <input type="checkbox"/> 未実施
	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 就職先事業所からの回収率は、前回調査より上昇したが、卒業生のアンケート回収率は、大学全体で上昇せず、目標達成に至らなかった。結果集約が未完全な状況での分析となったため、今後就職委員が中心となり、学科全体で検証・対策を行う予定			結果の 評価	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 前進 <input type="checkbox"/> 維持 <input checked="" type="checkbox"/> 停滞 <input type="checkbox"/> 後退
	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ・卒業時に3年後のアンケートについて学科ごとに周知し、卒業生へのアンケートの回収率を上げる。卒業生アンケート結果についての分析・検討を継続し、就職支援内容の見直しや新たな支援方法を検討する。アンケート回収に向けて、教員の更なる協力を要請したい。				
	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ・継続実施				
年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	項目[事案]	学内合同企業説明会	決裁・意見・委託・上程の別	意見	
P 計画 ↓ D 実施 ↓ C 評価 ↓ A 改善	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ・昨年度より開催した「学内合同企業説明会」を低学年学生を中心に企画、運営・就職活動を開始する3年生によりよい説明会を提供したい ・学生スタッフに社会人、企業との関わりを多く経験させることで成長してほしい				
	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ・低学年を対象に、合同説明会のスタッフを公募、人文学部（観光文化学科のみ）9名が参加 ・11月より毎週火曜日にミーティングを実施 ・3年生が参加しなくなる説明会に向けて、どうするかを考え実施 ・3年生対象に参加してほしい企業についてアンケート実施 ・企業担当者に出張交渉（電話・メール・文書）・当日の説明会運営			過程の 評価	<input checked="" type="checkbox"/> 順調 <input type="checkbox"/> 遅延 <input type="checkbox"/> 未実施
	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ・リーダーを決めないチームとしてスタート（全員に等しく経験させ、責任をもった仕事に取り組ませたい） ・担当企業を必ずもったことで、学生スタッフは等しく経験値を上げることができた。不安を感じることは職員がフォロー。企業の方からは、好評価を得た。			結果の 評価	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 前進 <input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 停滞 <input type="checkbox"/> 後退
	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ・1年生が1名のみでの参加だった。次年度は1年生の参加者を増やす努力が必要 ・企業対象の合同説明会であるため、人文学部の教員に趣旨を説明し協力を仰ぎたい ・できる学生を対象とするのではなく、できない、やる気のない学生をこの活動に引き込みたい ・1年生との接点をどうもっていくか検討する必要あり				
	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ・継続実施 ・説明会のあり方を改善（企業まかせに当日実施したが、時間的制約をつけて参加学生がより多くの企業説明を聞かれる工夫をする）				

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	委員会名称	大学宗教 委員会			
大短委-2017-05	大学・大学短期大学部	担当部局等	部局等	学生部	課	学生課
委員会設置の根拠（規程等）		「大学宗教委員会規程」第1条				
構成	委員長	古川 敬康	副委員長	神崎 明坤	東 彩子	
	委員	新谷 恭明	山根 正夫	山田 志麻	神崎 明坤	
		東 彩子	古川 敬康			
構成員数						6

委員会の役割に関する事項（概要）	■学生の宗教指導に関する事項、その他宗教に関する事項について審議する。					
------------------	-------------------------------------	--	--	--	--	--

年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別
	チャペル・特別行事の企画・検討・運営	奨励者の選定、学生の指導等	決裁
	チャペル礼拝の充実	講師の工夫・週報の工夫（内容）	

年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別
	九州北部豪雨被災者支援募金活動	学内／街頭募金活動の企画・検討・実施	決裁
	チャペルの公開性		
	クリスマス礼拝の公開性		

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	チャペル・特別行事等の企画・検討・運営	決裁・意見・委託・上程の別	決裁	
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■キリスト教に基づく本学の教育の中で、特に重要な意味をもっているチャペル礼拝（ミッションデー・クリスマス礼拝等の特別行事を含む）の内容を企画・検討し、学生と教職員にキリスト教の真理と福音に接する機会となるように週報の内容を充実させている。			
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのように」に行ったか ■大学短期大学部では1、2年生全員出席制である。1年生のみ全員出席制である大学チャペルに全学生と全教職員が参加可能となるように、大講義室2か所に中継放送を実施している。 ■講師には、学生の人間性を涵養し視野を広げることのできる人物を招き、その工夫の一環として学科推薦の講師選定枠を設け、内容の充実を図っている。			
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■出席制となっている学年の出席率は良く、年2回の調査からすると、出席した学生はキリスト教の愛の精神を享受することができた。しかし、大学2年生以上の出席は増えなかった。 ■大学では、出席者全員にチャペル応答カードを記入させ、奨励に対する学生の感想や質問への回答を次週のチャペルプログラムに掲載しており、学生の理解を深めることに繋がっている。 ■大学のチャペル礼拝では、入学時から退出に際し前列から順次退場することを守った。 ■私語については、大学は増えたが、大学短期大学部では著しく減った。しかし、クリスマス礼拝ではいずれも少なかった。			
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■中継教室への大学2年生以上の出席者を増やすには、チャペル出席について、大学・大学短期大学部の方針に基づいて、その意義と必要性をアドバイザーやゼミ担当教員を通してなど、学生に繰り返し喚起し呼び掛けることが肝要である。この実施につき、教員の共通理解と協力体制が必要である。 ■賛美や奨励に学生が興味を持ち集中力を持続する力を一層持てるように礼拝の充実を目指し、讃美歌や講師の選定、冷暖房、音響、椅子の間隔等にも配慮し評価検討を続ける。 ■キリスト教センター事務室と学生課との連携によりチャペル礼拝は行われているが、キリスト教教育の一層の充実のためには、学生に対する全教職員（特に宗教委員会委員）の共通理解と協力が必要である。■これらの課題を宗教委員も共有化する。			
次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し 特になし。				

過程の評価
 順調
 遅延
 未実施

結果の評価
 達成
 前倒
 維持
 停滞
 後退

年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別		
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか		
	↓	↓	過程の 評価	
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのような」に行ったか	<input type="checkbox"/> 順調 <input type="checkbox"/> 遅延 <input type="checkbox"/> 未実施	
	↓	↓	結果の 評価	
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 前 進 維持 <input type="checkbox"/> 停 滞 <input type="checkbox"/> 後 退	
	↓	↓		
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと		
	次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し		
	項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別		
P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
↓	↓	過程の 評価		
D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのような」に行ったか	<input type="checkbox"/> 順調 <input type="checkbox"/> 遅延 <input type="checkbox"/> 未実施		
↓	↓	結果の 評価		
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 前 進 維持 <input type="checkbox"/> 停 滞 <input type="checkbox"/> 後 退		
↓	↓			
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			

委員会の運営・通常 の審議経過等に係る計画/ 実施/評価に関する事項	P 計画	委員会の運営・通常 の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■キリスト教に基づく女子教育に沿った全学的なチャペル計画を策定した。	
	↓		
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのような」に行ったか ■外部講師の人選について、宗教主事は、院長、学院宗教主任、学長に内諾を得て、宗教委員会 で意見を聴取し、承認を得た。	過程の 評価 ■順調 □遅延 □未実施
	↓		
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■当初の計画どおりチャペルを実施した。	結果の 評価 ■達成 □前進 □維持 □停滞 □後退
↓			
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■讃美歌や奨励に学生が興味を持ち、集中力を持続する力を一層持てるように讃美歌や講師選定 についての検討を続け、チャペル礼拝の充実を目指す。		
	次年度 見直し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見直し 特になし。	

委員会 が取り扱った項目[事 案]のうち特に 状況等の記載を 要する事項	項目[事案]	熊本・大分地震被災者支援募金	決裁・意見・委託・上程の別	決裁	
	項目[事案]に係る規程上の根拠	■九州北部豪雨被災者支援募金活動を企画・検討し、キリスト教センターとともに学内募金、及び学生・教職員ボ ランティアによる街頭募金をJR小倉駅南口で実施した。集まった募金は、西日本新聞民生事業団経由で該自治 体へ寄付された。			
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・大学短期大学部	委員会名称	研究紀要				委員会
大短委-2017-06			担当部局等	部局等	附属図書館	課	図書課	
委員会設置の根拠（規程等）		紀要規程第4条、研究紀要委員会規程						
構成	委員長	新谷恭明	副委員長	木沢誠名	末寄雅美	構成員数		
	委員	新谷恭明	野井未加	坂巻路可	木沢誠名			
		末寄雅美	南里宏樹	西川 忍				
						7		

委員会の役割に関する事項（概要）	■研究紀要原稿の募集に関する事項、研究紀要の編集に関する事項、研究紀要の刊行に関する事項、研究紀要の発送、整理及び保管に関する事項を審議する。						
------------------	---	--	--	--	--	--	--

年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	紀要編集・発行日程の見直し	教員の論文執筆に資する日程変更	決済	
	「学外査読者選考基準」の作成	「学外査読者選考基準」の作成	決済	
	「投稿論文チェックリスト」英語版	「投稿論文チェックリスト」英語版の作成		

年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	学術機関リポジトリについて	学術機関リポジトリの利用状況		
	印刷部数の削減について	印刷部数の削減	決済	
	ウェブサイトの参考文献の記載方法	ウェブサイトの参考文献記載方法の統一化		
	査読原稿の確認作業の徹底化	査読原稿の確認作業の徹底化		

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	紀要編集・発行日程の見直し	決裁・意見・委託・上程の別		
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■2016年度からの継続課題であり、2018年度導入を目指して新規日程案を作成する。			
	↓	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■現在5月に行っている原稿募集を4月に前倒しすることによって、執筆期間、査読後の修正期間を長く設定する日程案を作成し、各学科会で教員に周知を図った。■2018年度は試行期間とし、規程等の改正は2019年度以降を目処することを承認した。			過程の評価 ■順調 □遅延 □未実施
	D 実施				
	↓	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■2年間の検討の結果、教員の論文執筆に資する新たな編集・発行日程ができあがったことは、評価に値する。			結果の評価 ■達成 □前維持 □停滞 □後退
	C 評価				
↓	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 2018年度を試行期間とし、新規編集・発行日程を検証する。				
A 改善					
次年度見直し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見直し なし				

年度重点項目
[事案]の計画/
実施/評価に関
する事項

項目[事案]	「学外査読者選考基準」の作成	決裁・意見・委託・上程の別	決済	
P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■2016年度に数年来の課題であった外部査読者制を導入したが、明文化された選考基準がないため、「学外査読者選考基準」を作成する。			
↓				過程の 評価
D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■本学に専門領域の教員がない場合に限り、退職者から査読者を選考することとし、これに3つの条件を加えた選考基準を作成した。			■順調 □遅延 □未実施
↓				結果の 評価
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■2017年度は、学外査読者を選考することはなかったが、今後の査読者選考において選択肢が広がっていくと考える。			■達成 □前進 □維持 □停滞 □後退
↓				
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■学外査読者選考の際の手順、謝礼金について、さらに明文化したものを作成する。			
次年度見通し	次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し なし			
項目[事案]	「投稿論文チェックリスト」英語版の作成	決裁・意見・委託・上程の別		
P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■2015年度から採用した「投稿論文チェックリスト」は、原稿提出のみならず執筆においてもガイドラインとしての効果を上げているが、日本語を母国語としない教員から理解されていないことが判明し、英語版を作成する必要性が生じた。			
↓				過程の 評価
D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■2018年度採用を目標に、人文学部の教員に英語版の作成を依頼した。			□順調 ■遅延 □未実施
↓				結果の 評価
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■2017年度内の完成をみなかった。担当部署の計画性が足りなかった。			□達成 □前進 □維持 ■停滞 □後退
↓				
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■2017年度内には完成しなかったが、2018年度の使用に間に合うよう作業を進める。			
次年度見通し	次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し なし			

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P 計画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■「西南女学院大学紀要Vol. 22」の発行を目標とし、編集・発行業務が円滑にすすむよう年間スケジュールを作成する。■2016年度の反省をもとに、査読候補者選考を慎重に行うため、委員会の開催数を増やす。■「紀要編集・発行日程」の変更案を作成する。	
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■紀要原稿の募集、編集、発行及び他大学への送付を年間スケジュールに沿って行った。■査読候補者の選考については、委員会の開催回数を増やして慎重に行った。■2017年度委員会の最重要課題であった編集・発行日程変更案の作成にあたっては、委員会で活発に議論し、2018年度から試行することが可能となった。	過程の評価 ■順調 □遅延 □未実施
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■編集・発行日程の変更、査読候補者選考のための委員会開催増など、2016年度に課題としていた事案を解決することができた。 ■査読候補者の選考において、事前に内諾を得ていなかったケースが1件発生した。	結果の評価 □達成 ■前年 □維持 □停滞 □後退
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■2015年度から採用した「投稿論文チェックリスト」は、原稿提出のみならず執筆においても効果を上げているが、「紀要執筆申合せ」に則っていない原稿が毎年複数存在する。執筆者が「紀要執筆申合せ」を遵守するよう対策を図る。	
	次年度見通し	次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し なし	

委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項	項目[事案]	学術機関リポジトリについて	決裁・意見・委託・上程の別	
	項目[事案]に係る規程上の根拠	■2017年4月から図書館ホームページに「西南女学院大学図書館学術機関リポジトリ」を開設し、本学紀要に掲載された論文のうち著作権処理が済んでいる271件をフルテキストで公開している。2018年2月28日現在のダウンロード数は40,636件となっていることから、本学紀要掲載論文が、多くの研究に寄与していることがわかった。		
	項目[事案]	印刷部数削減について	決裁・意見・委託・上程の別	決裁
	項目[事案]に係る規程上の根拠	■学術機関リポジトリの整備により冊子体の送付辞退が増える見込みであること、2クール目の認証評価が終了したことから、これまでの600部から550部へ印刷部数を削減した。		
	項目[事案]	ウェブサイトの参考文献の記載方法	決裁・意見・委託・上程の別	
	項目[事案]に係る規程上の根拠	■「紀要執筆申合せ」にはウェブサイトの参考文献記載についての記述がないため、これまで記載方法が統一されていなかった。執筆者に配付する「紀要執筆におけるガイドライン」にウェブサイトの参考文献の記載方法を補記した結果、効果をみることができた。		
	項目[事案]	査読原稿の確認作業の徹底化	決裁・意見・委託・上程の別	
	項目[事案]に係る規程上の根拠	■昨年度、査読用原稿の英文表記部分に執筆者の氏名が記載されているケースが数件発生した。今年度は、紀要担当者や課長のほかに、さらに1名を加えて確認作業の徹底化を図ることで、チェック漏れを防ぐことができた。		
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別	
	項目[事案]に係る規程上の根拠			

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	委員会名称	公開講座				委員会
大短委-2017-07	大学・大学短期大学部	担当部局等	部局等	事務局	課	庶務課	
委員会設置の根拠（規程等）		公開講座委員会規程					
構成	委員長	今村浩司	副委員長	友原嘉彦	植村和彦	構成員数	
	委員	高橋甲枝	今村浩司	境田靖子	友原嘉彦		
		加來卯子	植村和彦			6	

委員会の役割に関する事項（概要）	<p>■公開講座委員会は、西南女学院大学及び西南女学院大学短期大学部全体として主催又は共催する公開講座に関する事項を審議する。</p>				
------------------	---	--	--	--	--

年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	公開講座の開催	シニアサマーカレッジの開催 (北九州市社会福祉協議会との委託契約)	決裁	本部事務局長

年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	公開講座の開催	決裁・意見・委託・上程の別	決裁	本部事務局長
	P 計画	<p>当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか</p> <p>■大学学則第55条及び短期大学部学則第51条に則り、公開講座を開催したい。 ■開催に当たっては、リピーターである受講生にとって新鮮なものとなるよう、講座担当講師の選出及び講座形態（講義、演習、実習、見学等）に関して工夫を図る。</p>			
	D 実施	<p>計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか</p> <p>■社会福祉法人北九州市社会福祉協議会との委託契約に基づき、北九州市立年長者研修大学校周望学舎の主催のもと本学が共催し、シニアサマーカレッジを開催した。 ■シニアサマーカレッジは、北九州市内在住若しくは市内に勤務している55歳以上の方を対象とする講座で、本学専任教員が講師を務めた。</p>			
	C 評価	<p>実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か</p> <p>■受講者は48名。 ■本学各学科及び別科の専門性を活かした講義・実習ほか、シャボン玉石けんへの社会見学も実施するなど、多彩なプログラムが展開された。 ■シニアサマーカレッジの円滑な運営のために担当部局はその役割を果たした。</p>			
	A 改善	<p>評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと</p> <p>■本学が有する教育資源を最大限活用し、毎年実施されるシニアサマーカレッジが変化に富むものであるよう努める。 ■受講生アンケート結果における要望・意見等に応えることができるよう、委員会として今後一層、各学科・別科と連携を図る。</p>			
	次年度見直し	<p>次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見直し</p> <p>■地域連携室による地域貢献活動との差別化を図り、公開講座としての独自性を図りながらも、本学としての地域貢献活動（社会貢献）の一貫性を保つことができるよう、学内における連絡調整を適切に行っていく。</p>			

年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別			
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
	↓	↓			
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			過程の 評価
	↓	↓			
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			結果の 評価
	↓	↓			
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			<input type="checkbox"/> 順調 <input type="checkbox"/> 遅延 <input type="checkbox"/> 未実施
	↓	↓			<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 前進 <input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 停滞 <input type="checkbox"/> 後退
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			
	項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別			
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
	↓	↓			過程の 評価
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			<input type="checkbox"/> 順調 <input type="checkbox"/> 遅延 <input type="checkbox"/> 未実施
↓	↓			結果の 評価	
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 前進 <input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 停滞 <input type="checkbox"/> 後退	
↓	↓				
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと				
次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し				

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・大学短期大学部	委員会名称	教職課程 委員会		
大短委-2017-08			担当部局等	部局等	教務部	課
委員会設置の根拠（規程等）		西南女学院大学・西南女学院短期大学部会議規則第39条、教職課程委員会規程				
構成	委員長	新谷 恭明	副委員長	横溝 紳一郎	阿南 寿美子	構成員数
	委員	伊藤 直子	一期崎 直美	杉谷 修一	西丸 月美	
		手嶋 英津子	橋本 久美子			9

委員会の役割に関する事項（概要）	1. 教職課程の編成、講義及び実習に関する事項 2. その他教職課程に関する事項
------------------	---

年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	災害時における教育実習実施について	災害時における教育実習の実施についての大学の見解	決裁	
	平成31年度からの教職課程再課程認定について	再課程認定に関する書類の記載内容についての検討 再課程認定に伴う学則・履修規程改正について	意見 上程	教授会・大学評議会

年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	教員採用試験について	教員採用試験の結果報告	意見	

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	災害時における教育実習の実施について	決裁・意見・委託・上程の別	決裁		
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■北九州地区大学教育実習連絡協議会で北九州市教育委員会より、実習先の学校が教育実習期間中に台風や積雪等の自然災害により休校となった場合、実習校としてどのような対応をしたらよいかを大学側が決めてほしいとの依頼がなされた。このことを受け、大学の方針について検討し、結論を出す。（昨年度からの継続審議事項）				過程の評価
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■昨年度末に大学の方針を決定する際の参考として、近隣の大学での対応を確認した。それを参考とし、本学の方針を踏まえた原案を作成し、審議がなされ、承認された。本学が決定した「自然災害時の教育実習の取り扱いについて」は、学生が教育実習の事前打ち合わせの際に持参することになった。				
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■北九州市内の実習校においては、北九州地区大学教育実習連絡協議会に加入している各大学が「自然災害時の教育実習の取り扱いについて」の方針を示すことにより、自然災害時におけるスムーズな対応ができる。				結果の評価
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■本学の「自然災害時の教育実習の取り扱いについて」の方針が決定したので、今後は、北九州市内での実習校だけでなく、市外での実習校についても周知していくことが必要となる。				■達成 <input type="checkbox"/> 前 <input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 停滞 <input type="checkbox"/> 後退
	次年度見直し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見直し				

項目[事案]	再課程認定について	決裁・意見・委託・上程の別	決裁	
		当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか		
P 計画	<p>■平成31年4月1日から施行される教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に伴う変更事項について共通認識し、再課程認定に伴う書類を作成する。</p>			
↓	↓			
D 実施	<p>計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか</p> <p>■教務課より再課程認定に必要な書類について説明をし、各学科の委員に作成して戴いた。3回の委員会を開催し、12月中に書類を整え、1月12日に文部科学省へ第1回目の事前相談に行った。事前相談でいくつかの指摘事項があったため、委員会で報告し、再度書類の修正をお願いした。2月中旬に第2回目の事前相談に行く予定。</p>			<p>過程の 評価</p> <p>■順調 □遅延 □未実施</p>
↓	↓			
C 評価	<p>実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か</p> <p>■委員会では、常に情報を共有し、提出書類の確認をすることができたので、スムーズに再課程認定に必要な書類作成をすることができた。</p>			<p>結果の 評価</p> <p>■達成 □前進 □維持 □停滞 □後退</p>
↓	↓			
A 改善	<p>評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと</p> <p>■教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則変更に伴う新教育課程について、授業内容や到達目標等を確認し、実施していく必要がある。また、各学科においても教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に伴う変更事項についての周知を図ることが肝要である。</p>			
	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			
次年度見通し				
項目[事案]	再課程認定について	決裁・意見・委託・上程の別	決裁	
	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
P 計画				
↓	↓			
D 実施	<p>計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか</p>			<p>過程の 評価</p> <p>□順調 □遅延 □未実施</p>
↓	↓			
C 評価	<p>実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か</p>			<p>結果の 評価</p> <p>□達成 □前進 □維持 □停滞 □後退</p>
↓	↓			
A 改善	<p>評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと</p>			
	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			
次年度見通し				

年度重点項目
[事案]の計画/
実施/評価に関
する事項

委員会の運営・通常 の審議経過等に係る計画/ 実施/評価に関する事項	P 計画	委員会の運営・通常 の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■「教職課程履修の手引き」の活用について確認し、内容を検討する。 ■教員採用試験の状況を把握する。 ■再課程認定の書類作成に関する情報を集め、共通認識する。		
	↓	↓		
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■「教職課程履修の手引き」は、リクレーション時には活用し、説明を行った。 ■各学科の教員採用試験の状況を報告した。今年度より「教員採用試験突破講座」を実施した。■再課程認定に関する書類作成については、担当部署の教務課を中心として内容についての情報を集め、委員会で報告し、共通理解を深めた。		
	↓	↓		
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■今年度も何名かの教員採用者が確認された。また、「教員採用試験突破講座」を開設することで、教職に就くという意識の向上に繋がった。■再課程認定の書類作成については、提出までのスケジュールや学内書類提出日を決めていくことで、文科省への事前相談や学内で必要な会議の実施を確認することができた。		
↓	↓			
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■「教職課程履修の手引き」の活用状況を確認し、内容の検討が必要である。■来年度も引き続き「教員採用試験突破講座」を実施し、教員採用試験の合格率をUPする必要がある。■再課程認定に関する書類は、3月末の提出を目指し、引き続き進めていく。			
	次年度見通し	次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し ■2018年度より、北九州市教育委員会教職員課の選考試験担当者による「教員採用に関する説明会」を開催することになった。		
委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項	項目[事案]	福祉学科養護教諭取得希望者の選抜について	決裁・意見・委託・上程の別	決裁
	項目[事案]に係る規程上の根拠	■福祉学科では、2年生後期に実施していた養護教諭取得希望者の選抜を取りやめることにした。ただし、学生のモチベーションを維持するため、「履修指導の概要/到達目標と行動計画」について検討している。		
	項目[事案]	2018年度教職課程非常勤講師について	決裁・意見・委託・上程の別	意見
	項目[事案]に係る規程上の根拠	■学則別表二の教職課程科目を担当している非常勤講師2名の定年退職に伴い、2018年度より新規に非常勤講師を委嘱することになる。そのため、委員会においても履歴書等を確認し、委嘱の有無について協議した。		
	項目[事案]	福祉学科の姫路大学との教育連携の解消について	決裁・意見・委託・上程の別	意見
	項目[事案]に係る規程上の根拠	■2014年度より福祉学科子ども家庭福祉コースの学生が幼稚園教諭免許状を取得できるように、姫路大学と教育連携を結び、実施していたが、2018年度からの教育課程改正に伴い、教育連携を解消することになった。		
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別	
	項目[事案]に係る規程上の根拠			
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別	
	項目[事案]に係る規程上の根拠			

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・大学短期大学部	委員会名称	大学キャンパス・ハラスメント防止・対策			委員会
大短委-2017-09			担当部局等	部局等	学生部	課	学生課
委員会設置の根拠（規程等）		「大学キャンパス・ハラスメントの防止及び対策に関する規程」第5条					
構成	委員長	八尋 春海	副委員長	青木 るみ子	植村 和彦	構成員数	
	委員	一期崎 直美	杉本 有紗	青木 るみ子	馬本 鈴子		
		林 裕二	谷崎 太	植村 和彦	八尋 春海		
		三宅 利佳				9	

委員会の役割に関する事項（概要）	<p>■キャンパス・ハラスメントの防止のための研修、調査及び啓発活動に関する事項、キャンパス・ハラスメントに関する相談及び問題解決のための手続きに関する事項、調査結果の報告及び対応策の勧告に関する事項、その他キャンパス・ハラスメントに関する事項について審議する。</p>
------------------	---

年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別
	ハラスメント防止活動	セミナーの企画・開催（2018.2.15開催）	決裁

年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別
	ハラスメント相談員講習会の実施	相談・問題解決に係る手続き等の理解促進	決裁
	ハラスメント啓発活動	啓発リーフレットの配布	決裁
	苦情申立て（2017-1号）	アカデミック・ハラスメント	意見 学長

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	ハラスメント防止活動	決裁・意見・委託・上程の別	決裁	
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか キャンパスハラスメント防止セミナーを開催して、教職員のハラスメント防止の意識を高める。			
	↓	↓			
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■広島大学ハラスメント相談室長の横山美栄子教授を迎え、学生指導のなかで起こりやすいハラスメントを中心に、ハラスメントの防止と相談対応の基本を理解することをテーマに、2018年2月15日にセミナーを開催した。■出席率向上のため、学内LAN掲出のほか大学評議会と運営会議で複数回周知を図った。			
	↓	↓			
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■全体の参加率は6割に届かなかった。■アンケート結果では、83.9%がハラスメント防止に対する意識が高まった（非常に高まった+高まった）、77.4%が知識や理解が深まった（初めて聞く内容で理解が深まった+知っていたが系統的な知識になって身についた）と回答した。			
↓	↓				
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 今回は開催時期を見直し、出席率の改善を図る。				
次年度見直し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見直し				

過程の評価
 順調
 遅延
 未実施

結果の評価
 達成
 前進
 維持
 停滞
 後退

年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別	
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか	
	↓	↓	過程の 評価
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか	
	↓	↓	結果の 評価
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か	
	↓	↓	結果の 評価
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと	
	次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し	
	項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別	
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか	
	↓	↓	過程の 評価
D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか		
↓	↓	結果の 評価	
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か		
↓	↓	結果の 評価	
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと		
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し		

- 過程の
評価
- 順調
 遅延
 未実施
- 結果の
評価
- 達成
 前進
 維持
 停滞
 後退

- 過程の
評価
- 順調
 遅延
 未実施
- 結果の
評価
- 達成
 前進
 維持
 停滞
 後退

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・大学短期大学部	委員会名称	国際交流				委員会
大短委-2017-10			担当部局等	部局等	学生部	課	学生課	
委員会設置の根拠（規程等）		「国際交流委員会規程」第1条						
構成	委員長	横溝 紳一郎	副委員長	平田 健太郎	笠 修彰	構成員数		
	委員	小野 正子	平田 健太郎	甲斐 達男	横溝 紳一郎			
		劉 明	笠 修彰	八尋 春海	三宅 利佳	8		

委員会の役割に関する事項（概要）	<p>■学生の海外研修に関する事項、海外の大学等との国際交流協定に関する事項、外国人留学生の受け入れに関する事項、学生の海外留学に関する事項、その他国際交流に関する事項について審議する。</p>
------------------	---

年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	学生の海外危機管理対策	学生の海外安全対策強化計画の策定・実施	決裁	
	国際交流協定の締結	培材大学校（韓国）との締結	上程	大学評議会
	学生の海外研修	引率の在り方を見直し	継続審議	

年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	学生の留学先の認定	ランガラ大学（カナダ）を認定	上程	大学評議会
	交換留学生の資格外活動に係る取扱い	規定見直しについて審議し、現行通りとなった。	決裁	
	中国協定校との交換留学の実施	受入れ各1名、派遣各1名	上程	教授会
	T E F L 研修生の受入れ	英国協定校ウィンチェスター大学から受入れ4名	決裁	

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	学生の海外危機管理対策	決裁・意見・委託・上程の別	決裁		
	P 計画	<p>当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか</p> <p>文部科学省による「大学における海外留学に関する危機管理ガイドライン」の制定を受けて、学生の安全管理の意識啓発及び学内の危機管理体制の見直しを図るために、6項目の強化計画を作成する。</p> <p>（1）海外旅行保険の指定と加入義務化 （2）危機管理システムの変更 （3）周知・意識啓発資料の作成 （4）渡航前オリエンテーションの実施 （5）渡航者の把握 （6）協定校との関係強化</p>				
		D 実施	<p>計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか</p> <p>■6項目の2018年度運用開始にあたり、学研災付帯海外旅行保険（通称「付帯海学」）の加入対象となる留学範囲を『学長が許可する海外研修・留学』とする案について、各学科から意見聴取を行った。■海外渡航時の手続きに関連して、1) 渡航前オリエンテーションは学生の動線を考慮して学生課の担当とする、2) 奨学金の手続漏れを防止するため「海外渡航届」に貸与状況の項目を追加することについて、各学科の教員及び学生に対し周知のお願いした。■海外でのトラブルから学生を守るために『海外安全対策ハンドブック～海外におけるトラブル回避マニュアル～』を作成した。</p>			
			C 評価	<p>実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か</p> <p>達成した。</p>		
	<p>評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと</p>					
					<p>過程の評価</p> <p>■順調 <input type="checkbox"/>遅延 <input type="checkbox"/>未実施</p> <p>結果の評価</p> <p>■達成 <input type="checkbox"/>前進 <input type="checkbox"/>維持 <input type="checkbox"/>停滞 <input type="checkbox"/>後退</p>	

	A 改善	確立された強化計画を、着実に実施していく。
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し

年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	項目[事案]	国際交流協定の締結	決裁・意見・委託・上程の別	上程	大学評議会	
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 国際交流協定を新たに締結することで、本学の更なる国際化を図る。				
	↓					過程の 評価
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■培材大学校（大韓民国）との協定締結について審議し、全員賛成で承認された。■ 東南アジア教育大臣機構地域語学センター（シンガポール）との協定締結計画につい ては、当面の間ペンディングとすることとなった。				
	↓					結果の 評価
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 達成した。				
	↓					A 改善
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 更なる国際化を図るために、新たな協定校を探す。					
次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し					
項目[事案]	学生の海外研修	決裁・意見・委託・上程の別				
P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 海外研修プログラムの引率形態を見直すことで、引率担当教員の負担を軽減する。					
↓					過程の 評価	
D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■近隣の女子大学の引率状況を調査した結果、現地適応に要する期間や研修の内容 （語学研修・文化体験）のほか、乗換回数・時差、受入先のサポート体制等を考慮の うえ、各プログラムの引率期間を定めていることが判った。■この結果を受けて、各 学科において、引率形態に関する方針案を検討することとなった。					
↓					結果の 評価	
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 継続審議の状態であり、まだ結論にまでは至っていない。					
↓					A 改善	
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと					

	A 改善	各学科から出される引率形態に関する方針案を踏まえて、本学全体共通の引率形態に関する方針を作成する。
	次年度見直し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見直し

委員会の運営・通常 の審議経過等に 係る計画/実施/ 評価に関する 事項	P 計画	委員会の運営・通常 の審議経過によって、 対象（何を・誰を）を どのような状態に したいのか ■姉妹校・協定校との 交流実績（回数、 内容等）を総点検し、 教育課程の国際交流 プログラム計画をもと に整理・開拓を行う。	
	D 実施	計画（P）を達成する ために「誰が」「何を」 「どのよう」に行ったか 国際交流協定校の新規 開拓にあたって、観光 文化学科からワイカト 大学（ニュージーラン ド）と培材大学校（大 韓民国）が、英語学 科から東南アジア教 育大臣機構地域語学 センター（シンガポ ール）が、協定締結 候補として推薦され た。	過程の 評価 ■順調 □遅延 □未実施
	C 評価	実施（D）によって 計画（P）は達成・前 進したか / 達成・前 進していない理由 は何か ■培材大学校（大韓 民国）は、協定締結 に結び付いた。■ ワイカト大学（ニュ ージーランド）に関 しては、大きな動 きは未だ見られてい ない。■東南アジア 教育大臣機構地域 語学センター（シン ガポール）との協 定締結はペンデ ィングとなった。	結果の 評価 □達成 ■前 進 □維 持 □停 滞 □後 退
	A 改善	評価（C）をふま えて、次年度に行 うべきこと / 行 うべきではない こと ■教育課程の国際 交流プログラム計 画をもとに、姉妹 校・協定校の整 理・開拓をさら に進める。 ■学士課程教育 に大学の国際化 が避けられない 今、人材を確保 しシステムを構 築するとともに、 学生募集の観 点からも、国際 交流の積極的 な推進に向け て全学レベル で着手すべき である。	
	次年度見直し	次年度における 計画（P）の 修正・変更・ 廃止の見直し	

委員会 が取り扱 った項目 [事案]の うち特に 状況等 の記載を 要する 事項	項目[事案]	交換留学生の資格外活動に係る取扱い	決裁・意見・委託・上程の別	決裁	
	項目[事案]に係る 規程上の根拠	中国協定校との学生交換に関する覚書			
	■観光文化学科から、社会体験としての資格外活動（アルバイト）の教育的効果や他大学における対応等を踏まえ、覚書の規定見直しが求められた。■審議の結果、資格外活動の取り扱いが現行通りとし、今後もこれまでと同様に、個々の事情や状況に応じ柔軟に対応し、■資格外活動に代わる教育上有意義な社会体験の機会が受入学科にて提供することとなった。				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る 規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
項目[事案]に係る 規程上の根拠					
項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
項目[事案]に係る 規程上の根拠					

	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別
	項目[事案]に係る規程上の根拠		

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・大学短期大学部	委員会名称	学生募集				委員会
大短委-2017-11			担当部局等	部局等	入試部	課	入試課	
委員会設置の根拠（規程等）		会議規則第39条、学生募集委員会規程						
構成	委員長	浅野嘉延	副委員長	大谷浩	阿南寿美子	構成員数	16	
	委員	大嶋満須美	財津倫子	荒木剛	文屋典子			
		天本理恵	古田吉史	横溝紳一郎	友原嘉彦			
		劉明	古賀玉緒	加來卯子	谷崎太			
		笠修彰						

委員会の役割に関する事項（概要）	■学生募集に関する事項について審議する。
------------------	----------------------

年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別
	入試説明会	高等学校教員対象の大学及び入試概要説明	決済
	高校訪問	高校進路指導部訪問による情報提供及び収集	決済
	オープンキャンパス（OC）	高校生、保護者向けの大学紹介・授業体験	決済

年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別
	リアル授業体験ウィークの実施	高校生による実際の大学講義の受講	
	模擬講義への出講	高等学校に出向く形式の大学講義の実施	
	学科ブログの運営	公式ウェブサイトへリンクするブログの更新	
	学生スタッフの推薦	OCで協力してもらう学生スタッフの選出	
	学科独自の募集企画	学科特性を重視した募集活動の実施	

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	入試説明会	決裁・意見・委託・上程の別	決済	
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■高等学校教員を対象に大学概要と次年度学生募集概要の説明を行ない、本学の教育に興味関心をもっていただくことで入学試験志願者増及び入学者確保につなげたい。			
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■6月中旬から下旬にかけ、北九州市（本学）、福岡市、熊本市、大分市、宮崎市、鹿児島市、山口市の7会場で開催した。 ■各会場に学生募集委員、入試課・就職課職員が出向き、教育内容と入試概要をパワーポイントと印刷物を用いて説明、また地区別の進路・就職状況を報告した。その後、質疑応答を行った。会場により当該地域で就職している卒業生をゲストスピーカーとして招いた。 ■説明内容では大学保健福祉学部の出願資格である高校での履修要件の廃止、学力試験受験方法及び地方試験会場の見直し等の変更点を中心に入試説明を行い、志願者数が増加した。 ■本学会場では学内施設見学希望の有無を事前に聴取し、説明会終了後に希望する教員を主な学内施設に案内した。			
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■統廃合の影響もあり参加高校数は66校で前年度に比べ5校減少した。 ■参加高校からの入学試験志願者数は前年度に比べ、大学が20名（6.7%）増加、大学短期大学部は23名（26.7%）減少し、合わせて3名（0.8%）減少となった。			
		評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			

過程の評価

■順調
□遅延
□未実施

結果の評価

□達成
■前進
□維持
□停滞
□後退

	A 改善	<ul style="list-style-type: none"> ■高校生、高校教員が求める情報を精査し、限られた時間内で情報提供する工夫をする。 ■高校教員から生徒に的確に本学の情報が伝わるような配布物（入試のポイントが明確、目立つ、見やすい、理解しやすい）を提供する。 ■卒業生ゲストスピーカーの招聘は、本学の教育の成果や社会につながる卒業後の状況を高校教員に伝える上で有効な手段と考えられる。また、就職状況報告も好評で、いずれもアンケート結果からも良い評価が得られているため次年度も継続する。
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し <ul style="list-style-type: none"> ■入学試験志願者増及び入学者確保を目指すために上記改善案を検討・実施し、入試説明会を行う。

項目[事案]	高校訪問	決裁・意見・委託・上程の別	決済	
P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■高等学校進路指導部を訪問し、本学の入試・募集に関する情報を提供するとともに、高校側の情報を収集するなど、本学与高校との関係をより緊密にすることで入学試験志願者増及び入学者確保をはかりたい。			
↓	↓			過程の評価 <input type="checkbox"/> 順調 <input checked="" type="checkbox"/> 遅延 <input type="checkbox"/> 未実施
D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■学生募集委員を主とした学科教員と入試課職員が志願者の多い50校を重点校としてこれを中心に訪問した。 ■大学概要及び入試概要を説明し、当該高等学校出身者の在学状況・卒業後の進路状況を報告した。また進学支援に資する本学の取り組みなどの情報を提供した。 ■特に大学の入試変更点を中心に説明を行った。あわせて教員・保護者向けリーフレットを作製し配布した。 ■高校側から進学動向等の情報を収集し、本学への志願を薦めていただく。 ■教職員とは別に、看護学科在学生出身校30校を学生自身が母校訪問し、学生生活等の近況報告を行った。			
↓	↓			結果の評価 <input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 前維持 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 停滞 <input type="checkbox"/> 後退
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■訪問校からの入学試験志願者数は前年度に比べ、大学が17名（4.1%）増加、大学短期大学部は39名（36.4%）減少し、合わせて22名（4.2%）減少となった。 ■大学では入試変更点等の情報が生徒に伝わったため、志願者数が増加した。一方、大学短期大学部では十分な説明ができなかったのか、志願者数を減らした。 ■全体として高校訪問の方法、時期、回数などには改善点があると思われる。			
↓	↓			
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■次年度も重点校を設定し、これらの高校を中心に訪問を行う。 ■高校進路指導部や教員と、より良好な関係を気づくために高校訪問を行なう担当者を固定する、。また、高校の特性によって訪問の時期・回数など検討する。			
	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■高校訪問の実施方策を上記改善案に従って行なう。			
項目[事案]	オープンキャンパス（OC）	決裁・意見・委託・上程の別	決済	
年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■本学での学生生活体験（模擬授業、在学生との交流や学食利用）を通して、学科の教育内容や本学の様子を高校生に理解してもらい、入学試験志願者を増やし入学者を確保したい。 ■近年、特に進学意思決定に影響のある保護者の参加を促し、本学への進学を薦めてもらう。		
	↓	↓		
	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			

	D 実施	<ul style="list-style-type: none"> ■ 7月から9月にかけて全3回、全学的に開催した。学科教員・学生、入試部・学生部職員が高校生に直接、大学の特長をアピールした。 ■ 地理不案内な生徒でも安心して参加できるよう、最寄りのJR6駅（小倉、黒崎、折尾、博多、新宮中央、下関）から無料送迎バスを運行した。 ■ 高校生に同伴する保護者を対象にしたリーフレットを作成し、保護者説明会も行った。 ■ 参加者増加に向け、これまでに入試課と接触のあった高校生にダイレクトメールを送付した。 ■ OCの一環として、高校生が本学の通常授業を体験できるリアル授業体験ウィークを7月に実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 順調 □ 遅延 □ 未実施
	↓	↓	
	C 評価	<p>実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 参加者数は964名で、前年度に比べ36名(3.6%)減少したが、次年度の志願につながる低学年(1・2年生)の参加者の割合は例年のように多かった。 ■ リアル授業体験ウィークには52名が参加した。 ■ 入学試験志願者数は前年度に比べ、大学が50名(5.5%)増加したが、大学短期大学部は33名(23.6%)減少した。大学、大学短期大学部合計では27名(2.5%)の増加となった。 ■ 保護者向け説明会には62名の保護者が参加した。学費や学生生活支援、卒業後の進路支援について説明を行い、理解をいただいた。 	<p>結果の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 達成 □ 前 □ 維持 □ 停滞 □ 後退
	↓	↓	
	A 改善	<p>評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ リピーターへの配慮に加え、低学年の参加者に対する学科の模擬授業の内容や方法を工夫する。 ■ 無料バス送迎、保護者向けの説明会は、次年度も継続し実施する。 ■ 参加者の増員を目指し、開催日を検討したい。 ■ 参加者アンケートの回収方法に工夫が必要である。 	
	次年度見通し	<p>次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 上記改善案に従いOCを実施する。また、学生募集の新たな取り組みとして実施したリアル授業体験ウィークについても、より参加者を増やせるような改善策を検討する。 	

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P 計画	<p>委員会の運営・通常の審議経過によって、対象(何を・誰を)をどのような状態にしたいのか</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 4月～6月の各月1回、合計3回の委員会を開催し、学生募集方策等の審議・検討をしているが、各回で提出される議題が多い。 ■ 議題の提示後、各学科で十分な時間をかけて審議・検討を行ない、効果的な募集方策を実施したい。 	
	↓	↓	
	D 実施	<p>計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 学科での審議時間を確保できるよう、1か月の期間において次回委員会を開催している。 ■ 審議・検討の日程が不足すると思われる議題については、前年度3月に学科長に事前提示するものもある。 	<p>過程の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 順調 □ 遅延 □ 未実施
	↓	↓	
	C 評価	<p>実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 学科で審議・検討された結果は、次回委員会の開催までに入試課で取り纏め、会議資料として作成している。よって、学科内で審議・検討する時間・日程は確保できていると考える。 	<p>結果の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 達成 □ 前 □ 維持 □ 停滞 □ 後退
↓	↓		
A 改善	<p>評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 学科で十分に審議・検討が行えるよう、議題の整理や事前提示等について検討したい。 		
	次年度見通し	<p>次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し</p>	

次年度
見通し

■当該年度の学生募集委員会で検討した方策に従い、学生募集活動を行なう。

委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項

項目[事案]	学科独自の募集企画	決裁・意見・委託・上程の別	
項目[事案]に係る規程上の根拠	学生募集委員会規程第2条		
<p>■大学パンフレットに掲載していない取り組みや、パンフレットだけでは紹介しきれない取り組みがある学科では独自の学科リーフレットを作製し、高校生に配布している。</p> <p>■学科リーフレットを作製しない学科では、入試部と相談のうえ、作製費用の一部を学科独自の募集企画に充当することができる。</p> <p>■主に看護学科在学生による母校訪問、英語学科教員による高校生向け英検2級取得講座など、学科独自の取り組みを行っている。</p> <p>■ゼミ活動を地域貢献活動に連携させている学科もあり、在学生の教育の成果を発表する場として、取り組み状況を公式ウェブサイト等によって学外に紹介している。</p>			
項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別	
項目[事案]に係る規程上の根拠			
項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別	
項目[事案]に係る規程上の根拠			
項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別	
項目[事案]に係る規程上の根拠			
項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別	
項目[事案]に係る規程上の根拠			

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・大学短期大学部	委員会名称	教育経費予算配分			委員会
大短委-2017-12			担当部局等	部局等	事務部	課	会計課
委員会設置の根拠（規程等）		教育経費予算配分委員会規程					
構成	委員長	藤田 稔子	副委員長	甲斐達男	マルコム・ロス・スワンソン	構成員数	
	委員	前田由紀子	納戸美佐子	甲斐達男	マルコム・ロス・スワンソン		
		八尋春海	谷崎 太	藤田稔子			
							7

委員会の役割に関する事項（概要）	当年度の確定予算額により、①十分に検討された必要物品及び備品、②実習先への実習謝金、③実習実施に伴う旅費交通費、④専任教員以外の者が行う授業に対する報酬謝金、⑤十分に検討されたその他の経費について、審議する。					
------------------	--	--	--	--	--	--

年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	当年度の確定予算	予算申請、執行について	決済	
	前年度の実績報告	実績額について	決済	
	次年度の暫定予算	次年度の5月1日現在にて決定（確定）	決済	

年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	人文学部の特別経費の予算管理	予算申請から実績の報告までの管理	決済	

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	当年度の確定予算	決裁・意見・委託・上程の別	決済	
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 教育経費予算配分委員会規程並びに実務細則に基づき、各学部の予算額を下記の通り算定する。 保健福祉学部および短期大学部は、学生1人当り納付金額×在籍学生数×1/4×12%である。 人文学部は、学生1人当り納付金額×在籍学生数×1/4×12%×40%である。			
		D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか 規程、細則に添って、予算を超過することなく執行した。		
	C 評価		実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 予算計画通りの執行についての評価は達成に値する。		
		A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 科目によっては、超過した科目があるため予算計画の段階でより一層の暫定シーリングの作成が必要であると考え。		
	次年度見直し		次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見直し 特になし		

年度重点項目
[事案]の計画/
実施/評価に関
する事項

項目[事案]	前年度の実績報告	決裁・意見・委託・上程の別	決済	
P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 予算額を超えないよう努める。			
↓				過程の 評価
D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか 予算額を超えないよう、執行状況を把握し各委員に情報提供した。			■順調 □遅延 □未実施
↓				結果の 評価
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 各学科、予算額を超えることなく予算執行されていた。			■達成 □前進 □維持 □停滞 □後退
↓				
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 次年度も計画通り執行されるよう努める。			
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し 特になし			
項目[事案]	次年度の暫定予算	決裁・意見・委託・上程の別	決済	
P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 教育経費予算配分委員会規程並びに実務細則に基づき、下記の通り算定する。（当年度5月1日 現在の学生数を基に次年度の暫定予算額を算定。） 保健福祉学部および短期大学部は、学生1人当り納付金額×在籍学生数×1/4×12%である。 人文学部は、学生1人当り納付金額×在籍学生数×1/4×12%×40%である。			
↓				過程の 評価
D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか 各委員に、会計課より暫定予算額を提示した。			■順調 □遅延 □未実施
↓				結果の 評価
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 各委員より暫定予算内にて予算案を提出していただいたが、栄養学科については入学 予定者の減少が考えられるため、保留とした。			□達成 ■前進 □維持 □停滞 □後退
↓				
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 次年度は、計画通り予算案が提出できるよう努める。			
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し 特になし			

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・大学短期大学部	委員会名称	倫理審査			委員会
大短委-2017-13			担当部局等	部局等	事務局	課	庶務課
委員会設置の根拠（規程等）		研究取扱規則第4条					
構成	委員長	谷川弘治	副委員長	馬本鈴子	藤田稔子	構成員数	
	委員	谷川弘治	目野郁子	山根正夫	田川辰也		
		馬本鈴子	藤田稔子	植田浩司	菊田彰夫		
		山崎工					
						9	

委員会の役割に関する事項（概要）

■倫理審査委員会規程第2条にもとづき、①研究の実施計画の適否に関する事項、②研究倫理教育に関する事項、③その他倫理審査に関する事項について審議する。研究の実施計画の適否に関しては、同規定第3条に基づき、西南女学院大学及び西南女学院大学短期大学部の教員、助手、教育支援職員又は事務職員（以下「教職員」という。）が中心となって行う人間を直接対象とした研究（以下「研究」という。）が、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針（平成13年文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示第1号）、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（平成26年文部科学省・厚生労働省告示第3号）に適合しているか否かを審査するほか、当該研究に関連する学会が定める倫理規程等がある場合、研究がその倫理規程等に適合しているかを検討することができる。さらに、教員の指導のもと学生が行う研究で、学会発表あるいは学会誌への投稿が見込まれるものについて、同様に審査する。

年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	内部規則等の整備・充実	研究取扱規則改正及び申請等様式整備	上程	大学評議会
	研究倫理の確立	研究倫理講習会の開催		

年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	研究の実施計画の適否の審議	人間を直接対象とした研究の適切性の審査	報告	学長

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	内部規則等の整備・充実	決裁・意見・委託・上程の別	上程	大学評議会	
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■新しい倫理指針に基づいて「研究取扱規則」及び「倫理審査委員会規程」の一部改正、「研究に用いられる情報及び試料の保存等に関するガイドライン（案）」及び「人を対象とする幅広い分野の研究計画に対する倫理審査委員会における取扱（申し合わせ）」の整備を順次進めたい。 ■倫理審査申請書等の様式類について、審査に資するよう改正したい。				
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■数回にわたる委員会において、事前の説明（審議の予告）を経て審議を行い、全ての事項について承認した。				
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■新しい研究倫理に沿った本学における倫理審査体制が内部規則上整った。 ■内部規則等の整備・充実をとおして、委員相互で内部規則等や文書処理等に対する理解が深まった。				
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■改正された「研究取扱規則」及び「倫理審査委員会規程」のもとで、実際の研究活動の場で研究倫理の更なる深化が進むよう留意しながら委員会運営を行っていく。				
次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し						

過程の評価

■順調
□遅延
□未実施

結果の評価

□達成
■前進
□維持
□停滞
□後退

次年度見通し	<p>■倫理審査委員会における審査をとおして、新しい倫理指針に基づいた「研究取扱規則」や「研究に用いられる情報および試料の保存等に関するガイドライン（案）」及び「人を対象とする幅広い分野の研究計画に対する倫理審査委員会における取扱（申し合わせ）」が教職員に浸透しているかを確認していく。</p>
--------	---

年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	項目[事案]	研究倫理の確立	決裁・意見・委託・上程の別			
	P 計画	<p>当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか</p> <p>■西南女学院大学及び西南女学院大学短期大学部（以下「本学」という。）の教員（嘱託教授及び特任教授を含む。）、助手、教育支援職員又は事務職員が中心となっていく、人間を直接対象とした研究が適切に実施されるために、研究倫理への理解を深める。同様に学生の研究倫理に対する理解を深める。</p>				
	↓	↓				過程の 評価
	D 実施	<p>計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか</p> <p>■2017年9月21日に「研究倫理講習会」を開催した。産業医科大学医学概論教室 藤野昭宏教授を招聘し、「人を対象とする医学系研究の倫理—個人情報保護法の改正に伴う見直しについて—」を演題としてご講演いただいた。■新任者には、4月のオリエンテーション時にパンフレットを配付した。新入生には、4月のオリエンテーション時に保健福祉学部長がパンフレットに基づく研究倫理の説明を行った。</p>				<input type="checkbox"/> 順調 <input type="checkbox"/> 遅延 <input type="checkbox"/> 未実施
	↓	↓				結果の 評価
	C 評価	<p>実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か</p> <p>■研究倫理講習会は84名が受講した。保健福祉学部82%、助産別科100%、人文学部7%、短期大学部47%であった。</p>				<input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> 前進 <input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 停滞 <input type="checkbox"/> 後退
	↓	↓				
	A 改善	<p>評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと</p> <p>■倫理指針の改定などの動向と本学教員のニーズを踏まえて講習会を開催し、参加率を高めるなどして、引き続き研究倫理に対する理解と指針等に基づく行動の促進を図ることで、本学における研究活動の活性化を目指したい。</p> <p>■人文社会科学系研究の研究倫理についての研修の要望が強いため、審査の在り方を含め次年度検討を行う。</p>				
	次年度見通し	<p>次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し</p> <p>■2018年度入学生から、後期開講の「初年次セミナーⅡ」の科目の中で1コマを使って研究倫理教育を行う。担当者は各学科から選出する。</p> <p>■新任教員には、オリエンテーション時に研究倫理パンフレットを配付する。</p> <p>■人文社会科学系の研究倫理についてワーキンググループを設置し、検討を行う。</p>				
	項目[事案]	研究倫理の確立	決裁・意見・委託・上程の別			
P 計画	<p>当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか</p>					
↓	↓				過程の 評価	
D 実施	<p>計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか</p>				<input type="checkbox"/> 順調 <input type="checkbox"/> 遅延 <input type="checkbox"/> 未実施	
↓	↓				結果の 評価	
C 評価	<p>実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か</p>				<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 前進 <input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 停滞 <input type="checkbox"/> 後退	
↓	↓					
A 改善	<p>評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと</p>					

	A 改善
	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し
次年度見通し	

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P 計画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■ 規程等に基づき研究の実施計画の適否を審査し、当該研究の各種指針等への適合を担保する。	
	↓	↓	過程の評価
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■ 原則として月に1回委員会を開催し、学長に提出された倫理審査申請書等の内容について、指針等に基づいて、研究の実施計画の科学的合理性と倫理的適切性の観点から審査を行った。■ 審査に際しては、申請者に同席を求め必要な質疑及び助言を行った。	■ 順調 <input type="checkbox"/> 遅延 <input type="checkbox"/> 未実施
	↓	↓	結果の評価
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■ 委員会による審査に基づき、「承認」「条件付き承認」「変更の勧告」「不承認」「非該当」「その他」の結果を学長に報告した。■ 申請において申請書提出期限等への理解が不十分な例があった。■ 地域貢献活動の活性化と共に、これらを対象とする研究が増えており、倫理上の課題を整理する必要に迫られている。	■ 達成 <input type="checkbox"/> 前進 <input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 停滞 <input type="checkbox"/> 後退
↓	↓		
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■ ひきつづき規程及び倫理指針にもとづく厳正な審査を行いつつ、若手研究者のサポートも実施していきたい。 ■ 申請者に対して申請書提出期限等の周知徹底を図りたい（研究活動の一環としての手続遵守） ■ 研究計画書等の書式等の改善を進めていく。		
次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■ 地域貢献活動や教育活動を対象とする研究に関する倫理上の課題を整理し、審査のあり方を整理する。		

委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項	項目[事案]	研究の実施計画の適否の審議	決裁・意見・委託・上程の別	報告	学長	
	項目[事案]に係る規程上の根拠	倫理審査委員会規程				
	■ 定期的に委員会を開催し、申請が定期的に審査できる環境を整えた。					
	項目[事案]	情報公開	決裁・意見・委託・上程の別			
	項目[事案]に係る規程上の根拠					
	■ 本学公式ウェブサイト「教育情報の公表」として「研究倫理」を設け、「規程」「申請手順」「委員名簿」「議事録」を公開し、研究倫理上の社会的責務を果たしている。 ■ 本学公式ウェブサイト「オプトアウトを含む研究の情報公開ができるよう」に関係部署と検討する必要がある。					
	項目[事案]	情報管理	決裁・意見・委託・上程の別			
	項目[事案]に係る規程上の根拠					
	■ 匿名化の対応表について、保管場所の検討が必要である。					
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
項目[事案]に係る規程上の根拠						

	項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別	
	項目[事案]に係る規程上の根拠		

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・大学短期大学部	委員会名称	動物実験			委員会
大短委-2017-14			担当部局等	部局等	事務部	課	庶務課
委員会設置の根拠（規程等）		動物実験規程第6条第2項、動物実験委員会規程					
構成	委員長	谷川弘治	副委員長	尾上 均		構成員数	
	委員	谷川弘治	尾上 均	目野郁子	岡部明仁		
		田川辰也				5	

委員会の役割に関する事項（概要）	■動物実験計画に関する事項、動物実験計画の実施状況及び結果に関する事項、動物実験施設の使用状況及び実験動物の飼養保管状況に関する事項、その他動物実験の適正な実施に関する事項について審議する。					
------------------	---	--	--	--	--	--

年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
		動物実験に関するマニュアルの作成	動物の飼養保管や逸走時の対応等の明確化	意見

年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	動物実験施設等の視察	委員会による動物実験施設等の視察	意見	学長
	動物実験実施者に対する教育訓練	基本指針・飼養保管基準に基づく教育訓練	意見	学長

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別	意見	学長	
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■2016年度の外部検証では、「飼養保管手順書や逸走時の対応等を定める必要がある」との改善に向けた意見をもらった。 ■「実験動物飼養保管マニュアル」「実験動物逸走防止及び逸走時の対応マニュアル」「動物実験施設における緊急時の対応マニュアル」を作成し、管理運営体制の充実を図りたい。			
		D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■公私動協が提示しているマニュアルの雛形等を参考にして、「実験動物飼養保管マニュアル」「実験動物逸走防止及び逸走時の対応マニュアル」「動物実験施設における緊急時の対応マニュアル」を作成した。		
	C 評価		実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■各種マニュアルを作成したことで、管理運営体制を整えることができた。		
		A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■マニュアルの適切な運用を図る。		
	次年度見直し		次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見直し ■マニュアルの適切な運用により、管理運営体制の実質化を図る。		

- 過程の評価
- 順調
 - 遅延
 - 未実施
- 結果の評価
- 達成
 - 前進
 - 維持
 - 停滞
 - 後退

年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	項目[事案]	動物実験に関する規程等の整備	決裁・意見・委託・上程の別	意見	学長	
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか				
	↓	↓				
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか				過程の 評価 □順 調 □遅 延 □未実施
	↓	↓				
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か				結果の 評価 □達 成 □前 進 □維 持 □停 滞 □後 退
	↓	↓				
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと				
	次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか				
	↓	↓				
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか				過程の 評価 □順 調 □遅 延 □未実施
	↓	↓				
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か				結果の 評価 □達 成 □前 進 □維 持 □停 滞 □後 退	
↓	↓					
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと					
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し					

委員会の運営・通常 の審議経過等に 係る計画/実施/ 評価に関する事項	P 計画	委員会の運営・通常 の審議経過によって、 対象（何を・誰を）を どのような状態にしたい のか ■動物実験責任者が申請 した動物実験計画が動物 実験等に関する法令及び 機関内規程に適合して いるかどうかの審査を 実施し、その結果を学長 に報告する。また、動物 実験計画の実施の結果に ついて、必要に応じ助言 を行う。	
	↓		
	D 実施	計画(P)を達成するた めに「誰が」「何を」「 どのよう」に行ったか ■動物実験は実施され なかつたため、動物実 験計画の審査は行われ なかつた。	過程の 評価 <input type="checkbox"/> 順調 <input type="checkbox"/> 遅延 <input checked="" type="checkbox"/> 未実施
	↓		
	C 評価	実施(D)によって計画 (P)は達成・前進した か / 達成・前進してい ない理由は何か ■動物実験は実施され なかつたため、動物実 験計画の審査について は評価できない。	結果の 評価 <input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 前進 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 停滞 <input type="checkbox"/> 後退
↓			
A 改善	評価(C)をふまえて、 次年度に行うべきこと / 行うべきではないこ と ■審査の体制は整って いるので、動物実験計 画が提出されれば審 査を行い、動物実験の 適正な管理に努める。		
	次年度 見通し	次年度における計画 (P)の修正・変更・廃 止の見通し ■特になし。	

委員会が取り扱 った項目[事 案]のうち特に 状況等の記載を 要する事項	項目[事案]	動物実験施設等の視察	決裁・意見・委託・上程の別	意見	学長
	項目[事案]に係る規程上の根拠	動物実験委員会規程第2条			
	<ul style="list-style-type: none"> ■動物実験施設の使用状況及び実験動物の飼養保管状況について、委員会による視察・点検を行った。 ■今年度は動物実験を実施しておらず、飼育動物もいない。飼養保管施設の設備等には特に問題はなかった。 ■飼養保管手順書や動物逸走時の対応等を定めたマニュアルを備え付けておく必要がある。 ■温度計、湿度計を設置する必要がある。 				
	項目[事案]	動物実験実施者に対する教育訓練	決裁・意見・委託・上程の別	意見	学長
	項目[事案]に係る規程上の根拠	動物実験委員会規程第15条			
	<ul style="list-style-type: none"> ■公私動協主催の教育訓練・研修会に委員が1回参加した。 ■動物実験に関する外部検証の研修会に事務担当者が1回参加した。 ■それぞれの研修会の要旨を委員間で共有した。 				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別	意見	学長
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・大学短期大学部	委員会名称	学生個人情報保護			委員会
大短委-2017-15			担当部局等	部局等	学生部	課	学生課
委員会設置の根拠（規程等）		「学生個人情報保護規則」第14条／「学生個人情報保護委員会規程」					
構成	委員長	相良 かおる	副委員長	須藤 秀夫	篠木 賢一	構成員数	
	委員	布花原 明子	上村 眞生	相良 かおる	塚本 美紀		
		須藤 秀夫	谷崎 太	篠木 賢一	八尋 春海		
		伊東 幸雄	三宅 利佳			10	

委員会の役割に関する事項（概要）	■学生の個人情報保護の基本的施策に関する事項、学生の個人情報の適正管理に関する事項、学生の個人情報の開示、訂正及び削除に関する事項、学生の個人情報に係る不服申立てに関する事項、その他学生の個人情報保護に関する事項について審議する。					
------------------	---	--	--	--	--	--

年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	該当なし			

年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	該当なし			

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別	
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか	
	↓		過程の評価
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか	
	↓		結果の評価
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か	
↓			
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと		
次年度見直し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見直し		

年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別	
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか	
	↓	↓	過程の 評価
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか	
	↓	↓	結果の 評価
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か	
	↓	↓	結果の 評価
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと	
	次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し	
	項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別	
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか	
	↓	↓	過程の 評価
D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか		
↓	↓	結果の 評価	
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か		
↓	↓	結果の 評価	
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと		
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し		

過程の
評価
順調
遅延
未実施

結果の
評価
達成
前進
維持
停滞
後退

過程の
評価
順調
遅延
未実施

結果の
評価
達成
前進
維持
停滞
後退

委員会の運営・通常 の審議経過等に 係る計画/実施/ 評価に関する事項	P 計画	委員会の運営・通常 の審議経過によって、 対象（何を・誰を）を どのような状態にしたい のか 「学生個人情報保護規則」 等の学内規則の定めによ る適正な取扱いについて 周知を図るとともに、 審議が必要な事案が生じ た場合は、国の定める法 律やガイドラインに関す る正しい理解のもと、 実のある審議ができるよ うにしたい。	
	↓		
	D 実施	計画(P)を達成するた めに「誰が」「何を」「 どのよう」に行ったか 審議案件はなかった。	過程の 評価 <input type="checkbox"/> 順調 <input type="checkbox"/> 遅延 <input checked="" type="checkbox"/> 未実施
	↓		
	C 評価	実施(D)によって計画 (P)は達成・前進したか / 達成・前進していな い理由は何か 該当なし	結果の 評価 <input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 前 進 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 停滞 <input type="checkbox"/> 後退
↓			
A 改善	評価(C)をふまえて、 次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 該当なし		
	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し		
	次年度見通し		

委員会 が取り扱 った項目 [事案]の うち特に 状況等の 記載を要 する事項	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
	項目[事案]に係る規程上の根拠					
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
	項目[事案]に係る規程上の根拠					
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
	項目[事案]に係る規程上の根拠					
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
	項目[事案]に係る規程上の根拠					
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
	項目[事案]に係る規程上の根拠					

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・大学短期大学部	委員会名称	情報システム管理運用			委員会
大短委-2017-16			担当部局等	部局等	事務部	課	情報システム管理課
委員会設置の根拠（規程等）		情報システム管理運用委員会規程					
構成	委員長	伊東 幸雄	副委員長	マルコム・ロス・スリソソ		構成員数	
	委員	目野郁子	上村眞生	銀光	高橋幸夫		
		谷崎太	笠修彰	浅野嘉延	小川尚	10	

委員会の役割に関する事項（概要）	<ul style="list-style-type: none"> ■ ネットワークを含む情報システムの管理運用に関する事項 ■ 情報セキュリティに関する事項 ■ 情報システム利用者の支援及び違反行為に関する事項 ■ 情報処理に係る研修に関する事項 ■ ホームページに関する事項 ■ その他情報システムに関する事項
------------------	--

年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	■ 学内ネットワーク中央制御装置の冗長化	学内ネットワーク中央制御装置を冗長化する	決裁	
	■ 学生用無線LAN認証簡易化の検討	無線LANの認証簡易化について検討する	決裁	

年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	■ 情報処理研修	新任教職員及び新入生に対する情報処理研修	決裁	
	■ 情報処理演習室延長開放	定期試験前の情報処理演習室開放時間の延長	決裁	

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	■ 学内ネットワーク中央制御装置の冗長化	決裁・意見・委託・上程の別	決裁	
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■ 様々な業務や学生サービスにおいて情報ネットワークの利用率は年々増しており、学内ネットワークの可用性が重要になっている。そのため、中核となる中央制御装置を冗長化することにより障害リスクを軽減したい。			
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■ 中央制御装置を二段構成にすることで、障害発生時のリスクを軽減した。			
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■ 冗長化を行ったことで、障害発生時は速やかにネットワークを復旧したうえで、修理等の対応を行うことができるようになった。			
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■ 学内ネットワークを運用する上で、障害リスクの軽減と障害発生時の復旧手段の確認を継続して行っていく。			
次年度見直し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見直し ■ 特になし				

- 過程の評価
- 順調
 遅延
 未実施
- 結果の評価
- 達成
 前進
 維持
 停滞
 後退

年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	項目[事案]	学生用無線LAN認証簡易化の検討	決裁・意見・委託・上程の別	決裁		
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■稼働から1年経過した学生用無線LAN「SweetSpot」について、無線LAN接続認証とインターネット接続のユーザ認証の2段階認証からユーザ認証を解除し、1段階認証に変更したい。 ■特にスマートフォンからの接続の利便性を向上し、学生がより利用しやすい環境を構築したい。				
	↓					過程の 評価
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■認証の段階が減少することによるセキュリティリスクの検証を行い、実現の可否を検討した。				
	↓					結果の 評価
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■ユーザ認証がなくなることで、特にスマートフォン利用時に自動的に学生用無線LANに繋がることによりユーザ認証を強要されるという不便な状況を次年度より解消することができる。				
	↓					結果の 評価
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■学生用無線LANについては、インターネット回線とUNIVERSAL PASSPORTサーバへの接続のみが許可されており、学内ネットワークへのセキュリティリスクは極めて低い、認証解除後も継続的に検証を行っていく必要がある。				
	次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■特になし				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか					
↓					過程の 評価	
D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか					
↓					結果の 評価	
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か					
↓					結果の 評価	
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと					
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し					

委員会の運営・通常 の審議経過等に係る計 画/実施/評価に関 する事項	P 計画	委員会の運営・通常 の審議経過によって、 対象（何を・誰を）を どのような状態にしたい のか ■学内の情報サービスを断 続することなく提供した い。 ■学生、教職員がよりよ く情報サービスを利用で きるよう情報システムの充 実を図りたい。	
	↓		
	D 実施	計画(P)を達成するた めに「誰が」「何を」「 どのよう」に行ったか ■情報システムの保守、障 害について、情報システム 管理課が対応する。 ■学生が情報サービスをよ りよく利用できるよう、情 報処理演習室のメンテナ ンス、開放時間の延長等 を行った。	過程の 評価 ■順調 □遅延 □未実施
	↓		
	C 評価	実施(D)によって計画 (P)は達成・前進したか / 達成・前進していない 理由は何か ■発生した障害について、 サービスの停止時間を極 力短くするよう情報シス テム管理課によって適切 な対応が行われた。 ■情報処理演習室は高い稼 働率であり、特に延長開 放については学生サービス の充実の一環として機能 した。	結果の 評価 ■達成 □前進 □維持 □停滞 □後退
↓			
A 改善	評価(C)をふまえて、次 年度に行うべきこと / 行 うべきではないこと ■6208マルチメディア語 学教育演習室について、リ プレースの目安としてい る5年を経過し、機器の 老朽化による動作速度の 低下が見られるようになって おり、次期リプレースの 検討を行う。		
	次年度 見通し	次年度における計画(P) の修正・変更・廃止の見 通し ■6208マルチメディア語 学教育演習室のリプレース について、マルチメディア 機能の維持と531アク ティブラーニングスペース の実績を踏まえ検討を行 う。	

委員会 が取り 扱った 項目[事 案]の うち特 に状況 等の記 載を要 する事 項	項目[事案]	情報処理研修	決裁・意見・委託・上程の別	決裁	
	項目[事案]に係る規程上の根拠	情報システム管理運用委員会規程第2条			
	■新任教職員、新入生に対して、情報処理研修を実施の上アカウント発行を行った。 ■学内のネットワーク、情報処理演習室の利用に必要な事項について研修を行った。				
	項目[事案]	情報処理演習室の延長開放	決裁・意見・委託・上程の別	決裁	
	項目[事案]に係る規程上の根拠	情報システム管理運用委員会規程第2条			
	■情報処理演習室において、特に利用率の高まる定期試験前1ヵ月間、開放時間の延長を行った。 ■定期試験前の情報処理演習室については、例年通り高い利用率であり、延長開放は学生サービスの充実に繋がった。				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・大学短期大学部	委員会名称	図書 委員会			
大短委-2017-17			担当部局等	部局等	附属図書館	課	図書課
委員会設置の根拠（規程等）		図書委員会規程					
構成	委員長	南里宏樹	副委員長	友原嘉彦	命婦恭子	構成員数	
	委員	前田由紀子	柳澤伸一	相良かおる	友原嘉彦		
		命婦恭子	南里宏樹	西川 忍			7

委員会の役割に関する事項（概要）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 図書、研究情報及び資料等に伴う予算配分に関する事項を審議する。 ■ 図書、研究情報及び資料等に関する事項を審議する。
------------------	---

年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	図書館資料費予算配分	図書館資料費予算配分の決定	決済	
	図書館報編集・発行	図書館報編集・発行	決済	
	購読雑誌見直し	2018年度以降の購読雑誌の選定	決済	

年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	除籍対象図書の承認	大学64冊、短期大学部1031冊及び大学AV資料	決済	
		1点の除籍		

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	図書館資料費予算配分	決裁・意見・委託・上程の別	決済		
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■ 2017年度図書館資料費予算総額を、図書費・新聞雑誌費・データベース利用料に配分する。図書費の学科別配分は、学科の特性を考慮し、公平に行う。				
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■ 図書費の配分額は、年度契約となる新聞雑誌費とデータベース利用料を総額から減じた額とする。■ 学科別図書費は、各学科の学生数、学納金額、図書貸出冊数の比率を算出して配分する。■ 「2017年度大学図書館資料費配分案」、「2017年度短大部図書館資料費配分案」を第1回図書委員会において審議し、承認した。				過程の評価 ■ 順調 <input type="checkbox"/> 遅延 <input type="checkbox"/> 未実施
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■ 2017年度図書館資料費予算配分は適正に行われた。■ 2017年度の大学の図書費：新聞雑誌費：データベース利用料の配分比率は32：45：23であった。図書費：新聞雑誌費の比率は4：6で、昨年度に比べると外国雑誌の値上がり若干抑えられたため、図書費の割合が増加した。				結果の評価 ■ 達成 <input type="checkbox"/> 前進 <input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 停滞 <input type="checkbox"/> 後退
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■ 2016年度に課題に掲げていた図書費：新聞雑誌費の予算配分比率4：6は達成されたが、配分率は外国雑誌の価格変動に左右されるため、今後購読雑誌の見直しが必要である。				
	次年度見直し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見直し なし				

年度重点項目
[事案]の計画/
実施/評価に関
する事項

項目[事案]	図書館報編集・発行	決裁・意見・委託・上程の別	決済	
P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■読書活動の推進並びに図書館広報として、図書館報「要」第25号を2018年1月に発行する。			
↓				過程の 評価
D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■第3回図書委員会において編集計画を決め、発行作業を進めた。教員5名、学生3名、卒業生1名に各委員から執筆依頼を行った。■校正を4回行い、2018年1月に1,500部を発行、配付した。			■順調 □遅延 □未実施
↓				結果の 評価
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■編集・発行業務は、教員の協力を得ることで計画どおりに進めることができた。 ■図書館新刊図書コーナーにおいて、掲載図書の展示を行った。展示した図書を手に取り、借りていく利用者もあり、読書活動の一助となっている。			■達成 □前進 □維持 □停滞 □後退
↓				
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■図書館報は大学のPRにもつながるため、昨年度から、入試に関連する学校訪問の際に、教員に持参してもらうよう委員を通して働きかけた。2017年度は教員1名の利用があったが、さらなる利用を進める。■読書活動の推進のために、最も図書館を利用する在學生に配付する方法を検討する。			
次年度見直し	次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見直し なし			
項目[事案]	購読雑誌見直し	決裁・意見・委託・上程の別	決済	
P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■購読雑誌見直しは隔年で実施している。本来は2016年度に行うことになっていたが、今年度、2018年度以降の購読雑誌の見直しを行う。「2017年度図書館購読雑誌の見直し方針」に基づき、教育・研究の現状に即した雑誌構成を検討する。円安による洋雑誌価格高騰に対して購読中の洋雑誌について検討を行う。			
↓				過程の 評価
D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■各学科で学科選定の購読雑誌の継続可否・新規購読希望雑誌（電子ジャーナル含む）を検討し、図書委員会で2018年度以降の図書館購読全雑誌を決定した。■今年度をもって廃止となる短期大学部生活創造学科の購読雑誌は、他学科への移行並びに中止することを承認した。			■順調 □遅延 □未実施
↓				結果の 評価
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■6誌の新規購読（うち電子ジャーナル2誌）、14誌の購読中止（うち電子ジャーナル3誌、新聞1紙）を決定し、教育・研究の現状に合った購読雑誌の適正化を図ることができた。			■達成 □前進 □維持 □停滞 □後退
↓				
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■2018年度は購読雑誌の見直しを実施しない年度となっているが、休廃刊情報・洋雑誌の動向など隔年で実施する見直しに備え、把握していく必要がある。			
次年度見直し	次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見直し なし			

委員会の運営・通常 の審議経過等に 係る計画/実施/ 評価に関する事項	P 計画	委員会の運営・通常 の審議経過によって、 対象（何を・誰を）を どのような状態にしたい のか ■図書館利用促進のため に、委員へは図書館ガイ ダンスや貸出冊数などの 利用状況を報告し、周 知を図る。■蔵書の充 実・適正化を図り、学 生・職員の利用を促進 する。	
	D 実施	計画(P)を達成する ために「誰が」「何を」 「どのよう」に行ったか ■ガイダンスの告知及 び受講状況や学科別の 貸出数などの学生の利 用実績を示し、教員へ の周知を図った。■教 員へ図書選定について の周知を行い、図書選 定を進めた。■除籍図 書を承認し蔵書の適 正化を図った。	過程の 評価 ■順調 □遅延 □未実施
	C 評価	実施(D)によって計 画(P)は達成・前進し たか / 達成・前進し ていない理由は何か ■図書選定については 新規に6名の教員が指 定図書選定を行い、学 生の利用促進に貢献 した。■新規図書の選 書促進とともに除籍す べき図書について確 認・承認を実施し、 蔵書の適正化に努め た。	結果の 評価 ■達成 □前 □維持 □停滞 □後退
	A 改善	評価(C)をふまえて、 次年度に行うべきこと / 行うべきではないこ と ■図書館利用促進た めに、教員を通して図 書館ガイダンスの受講 を推進する。 ■蔵書を充実させ、 図書資料の利用促進を 図るため、教員の選書 を推進する。 ■近年、学生の貸出 図書の返却遅れが増加 し対応に苦慮している。 教員の協力が欠かせな いため、委員を通して 理解を求めていく。	
	次年度 見通し	次年度における計画 (P)の修正・変更・廃 止の見通し なし	

委員会 が取り 扱った 項目[事 案] のうち 特に 状況 等の 記載 を要 する 事項	項目[事案]	除籍対象図書の承認	決裁・意見・委託・上程の別	決済	
	項目[事案]に係る規程上の根拠	■資料の適正な管理のため「大学図書館除籍内規」に基づき除籍図書の承認を行った。■2017年度は大学64冊、短期大学部1031冊及び大学AV資料1点の除籍を承認した。			
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				